

令和 6 年度
世田谷区福祉人材育成・研修センター
事業報告書

令和 7 年3月

世田谷区福祉人材育成・研修センター

本報告書は、世田谷区福祉人材育成・研修センター（以下「研修センター」という）の令和6年度の実施について報告する。

目 次

I	世田谷区福祉人材育成・研修センターの概要	
1	世田谷区福祉人材育成・研修センターの取組み	・・・ 3
2	世田谷区の概要	・・・ 4
II	世田谷区の福祉人材を取り巻く状況と課題	
1	福祉・医療分野での有効求人倍率の状況	・・・ 7
2	世田谷区の福祉人材施策	・・・ 8
3	福祉分野の計画における福祉人材対策	・・・ 9
4	福祉人材確保・育成に関する調査概要と調査結果	・・・ 11
5	福祉の仕事の魅力向上・発信	・・・ 12
6	外国人職員交流会	・・・ 17
7	令和 6 年度の研修センターの主な取組み	・・・ 20
	令和 7 年度事業体系図	・・・ 40
	＜資料＞	
1	都内地域型研修機関	・・・ 42
2	令和 6 年度世田谷区福祉人材育成・研修センター事業実施状況	・・・ 44
	＜参考＞ 世田谷区福祉人材育成・研修センターと関係機関等関連図	・・・ 48

I 世田谷区福祉人材育成・研修センターの概要

1 世田谷区福祉人材育成・研修センターの取組み

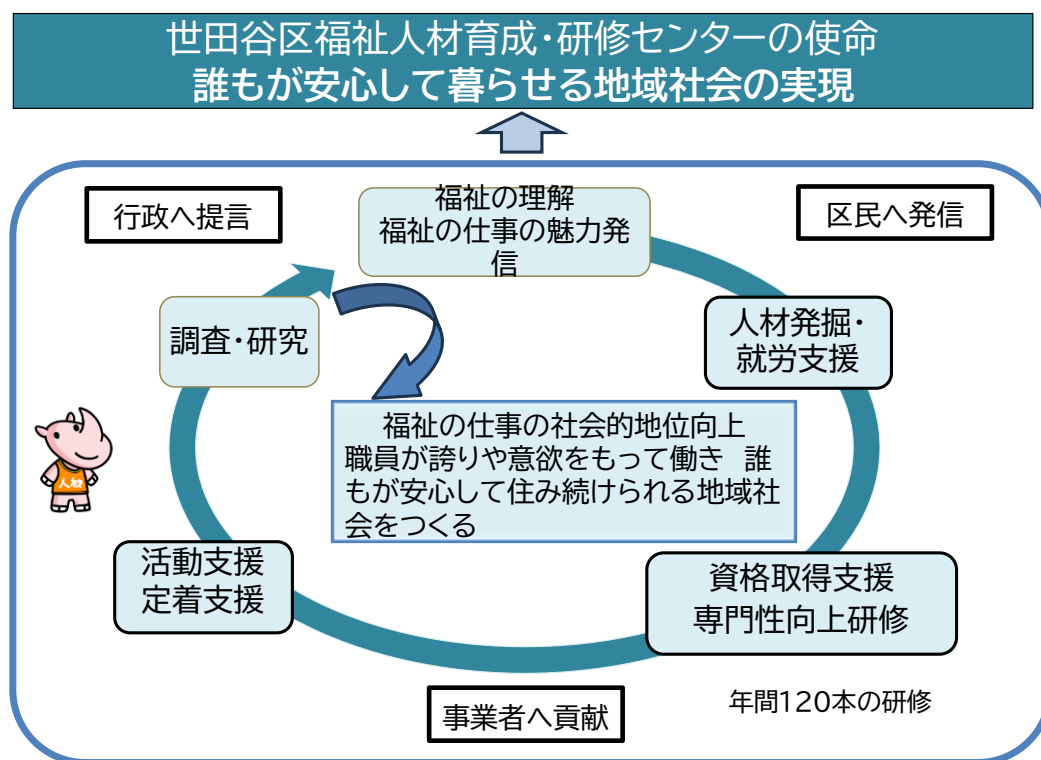
～誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられる地域づくりを目指して～

世田谷区福祉人材育成・研修センターは、平成 19 年 4 月、世田谷区が福祉人材の確保・育成・定着支援を総合的に推進するため設置し、社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団が運営している。研修センターは、福祉の理解促進、福祉のしごとの魅力発信、高齢福祉、障害福祉、子ども・子育て、医療福祉連携等年間 120 本を超える研修、調査・研究事業など、世田谷区の福祉人材の確保・育成・定着支援を総合的に推進している。

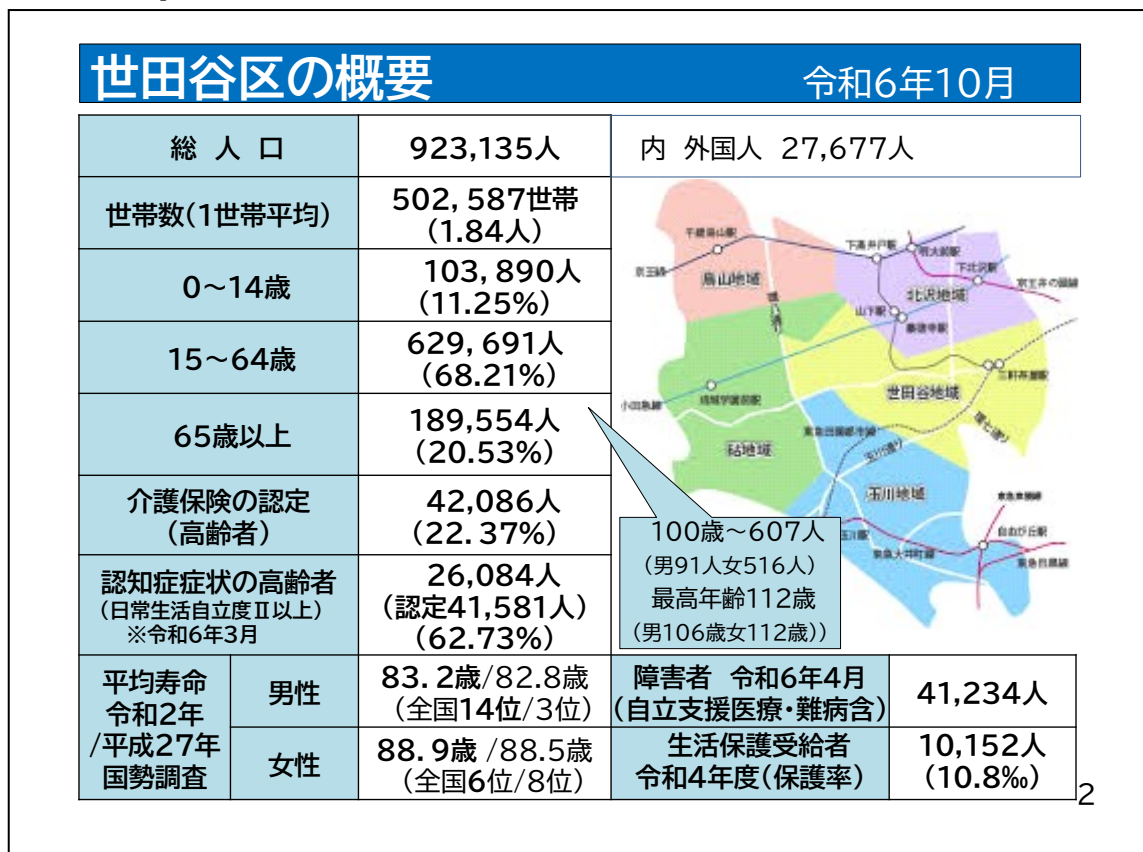
少子・高齢社会の進展により、生産年齢人口が減少し、福祉・介護人材不足は重大な課題となっている。また、単身世帯の増加や 8050 問題、ヤングケアラーなど福祉ニーズは複雑・多様化し、地域包括ケアシステムの深化や地域共生社会の構築など求められている。

令和 2 年の新型コロナ・ウイルス感染症の拡大により、研修センターでは、インターネットを活用した研修を取り入れ、受講者からは「日程調整がしやすい」「移動時間が節約できる」「繰り返し学ぶことができる」など好評をいただき、受講者数は以前の 2 倍となっている。一方、グループワークや実技演習などは、集合研修とするなど、研修内容に合わせた研修形態で実施している。

誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられる地域づくりの実現に向け、研修センターでは「区民に発信」「事業者へ貢献」「行政へ提言」の三本柱で、5 つの取組みを推進していく。



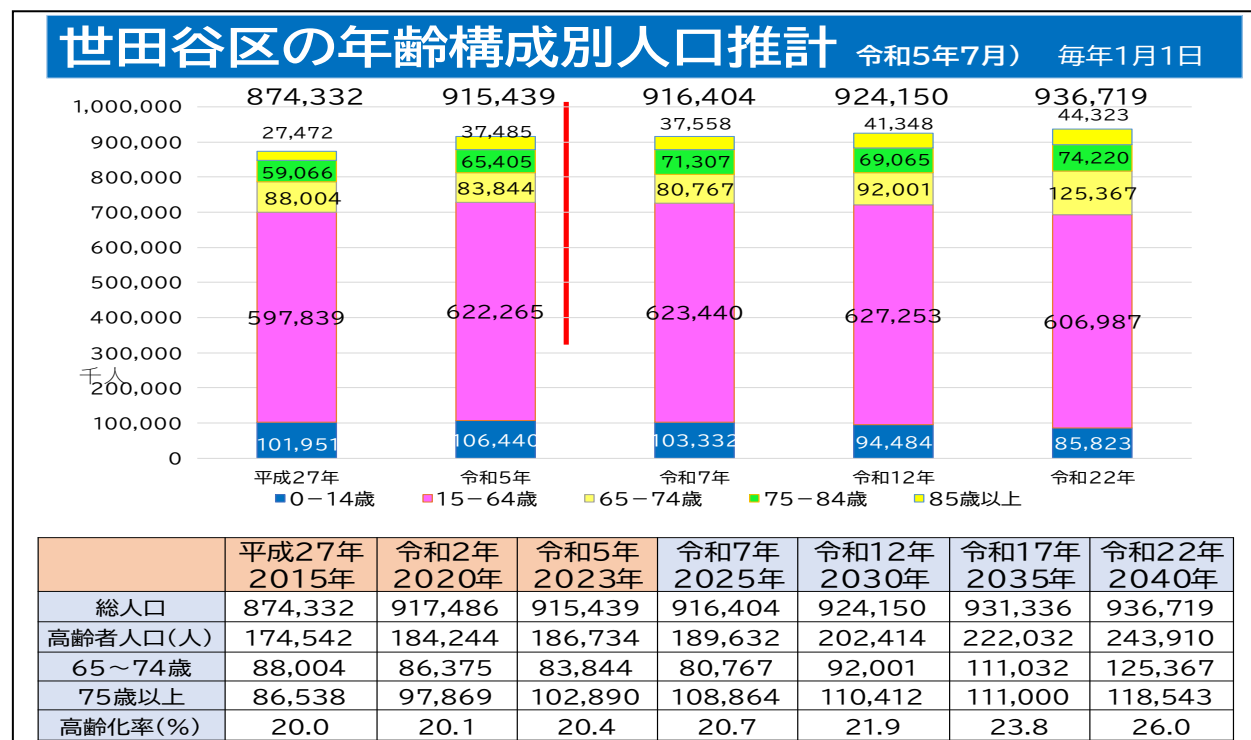
2 世田谷区の概要



(1) 世田谷区の福祉人材を取り巻く状況と課題

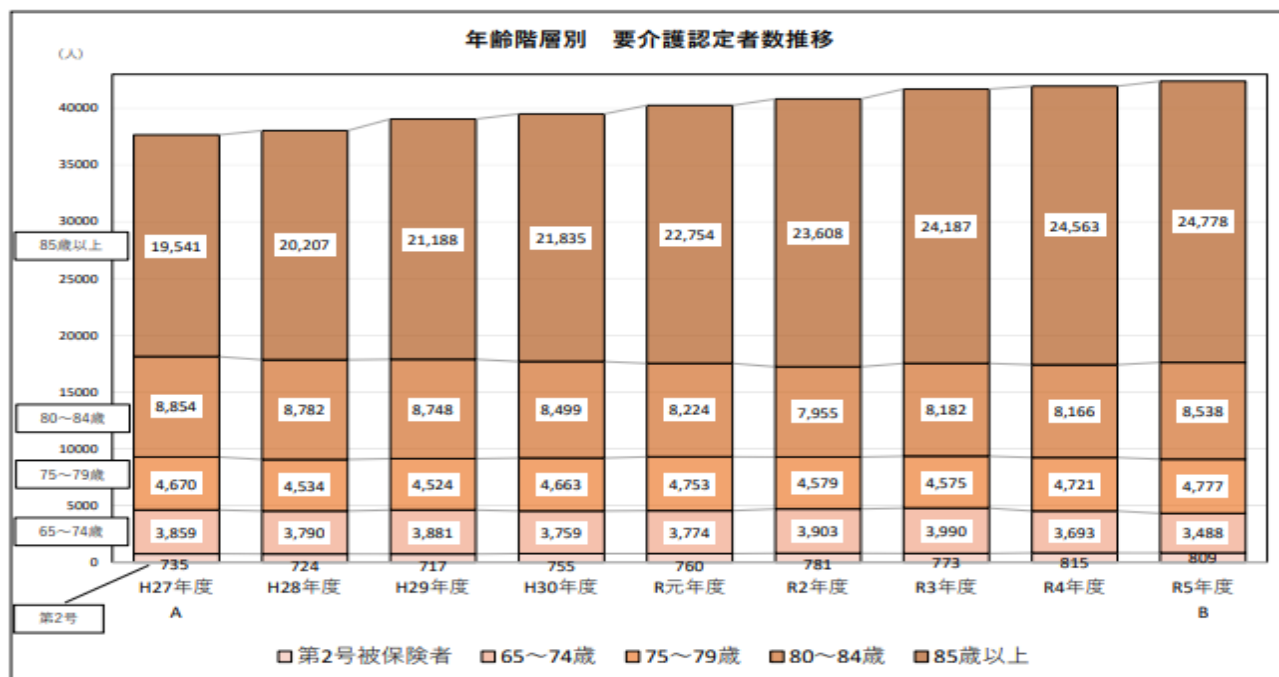
1) 世田谷区将来人口推計

世田谷区の将来人口推計によると、団塊の世代が75歳以上（後期高齢者）となる令和7年以降も高齢者の占める割合が増える一方で、15～64歳（生産年齢人口）と0～14歳（年少人口）は一貫して減少する。 出展：世田谷区人口推計（令和5年7月）



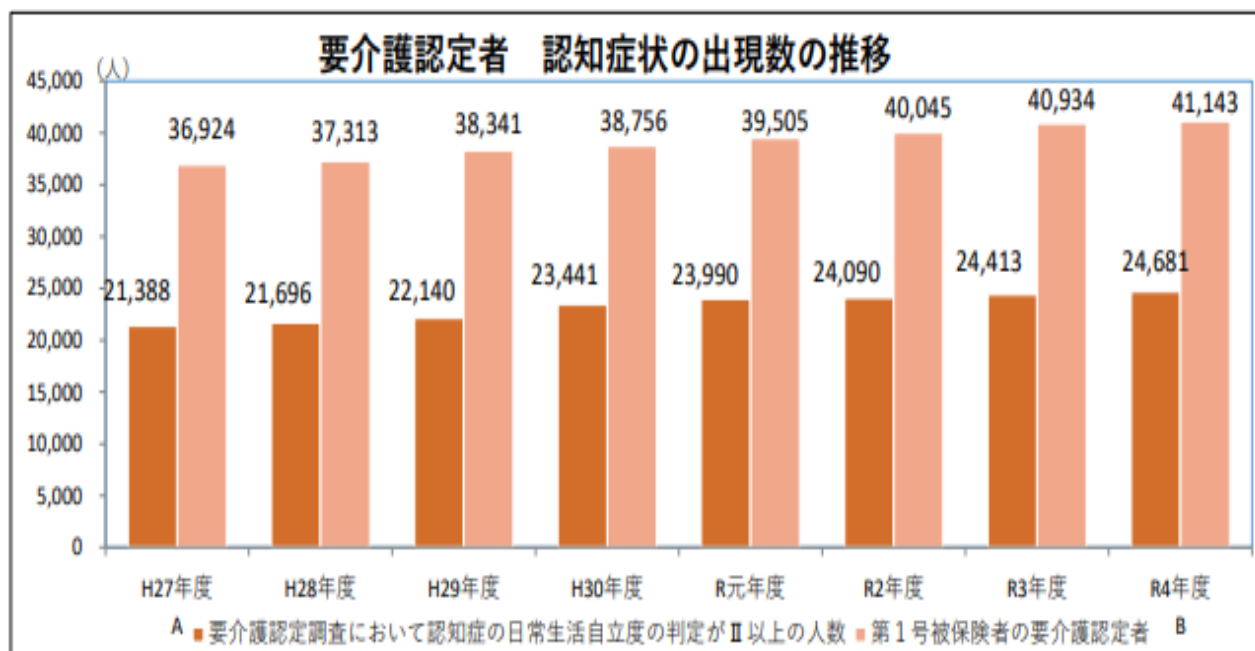
2) 第1号被保険者の年齢階層別の認定者の推移

65歳以上の第1号被保険者の介護保険の要介護（要支援）認定者は、増加し続けており、令和5年度には41,580人を超えている。要介護認定者の約6割は85歳以上となっている。



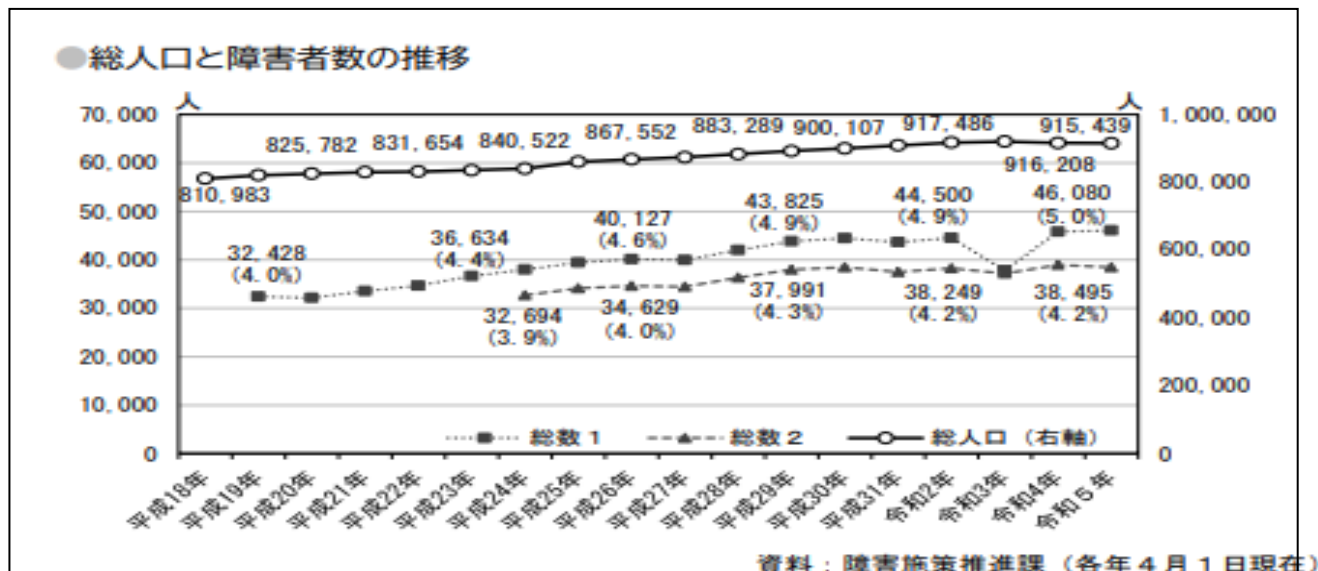
3) 要介護認定者 認知症状の出現数の推移

要介護認定者の約6割は何らかの認知症症状を呈している。



4) 障害者数の推移

障害者数は総数 1・総数 2 のいずれも一貫して増加傾向にあり、総数 1 は平成 19 年 32,428 人から令和 5 年は 46,080 人へと約 13,000 人の増加となり、人口比では 4.0%から 5.0%へ増加している。総数 2 では、平成 24 年の 32,694 人から令和 5 年の 38,495 人と約 6,000 人の増加となっており、人口比では 3.9%から 4.2%へ増加している。



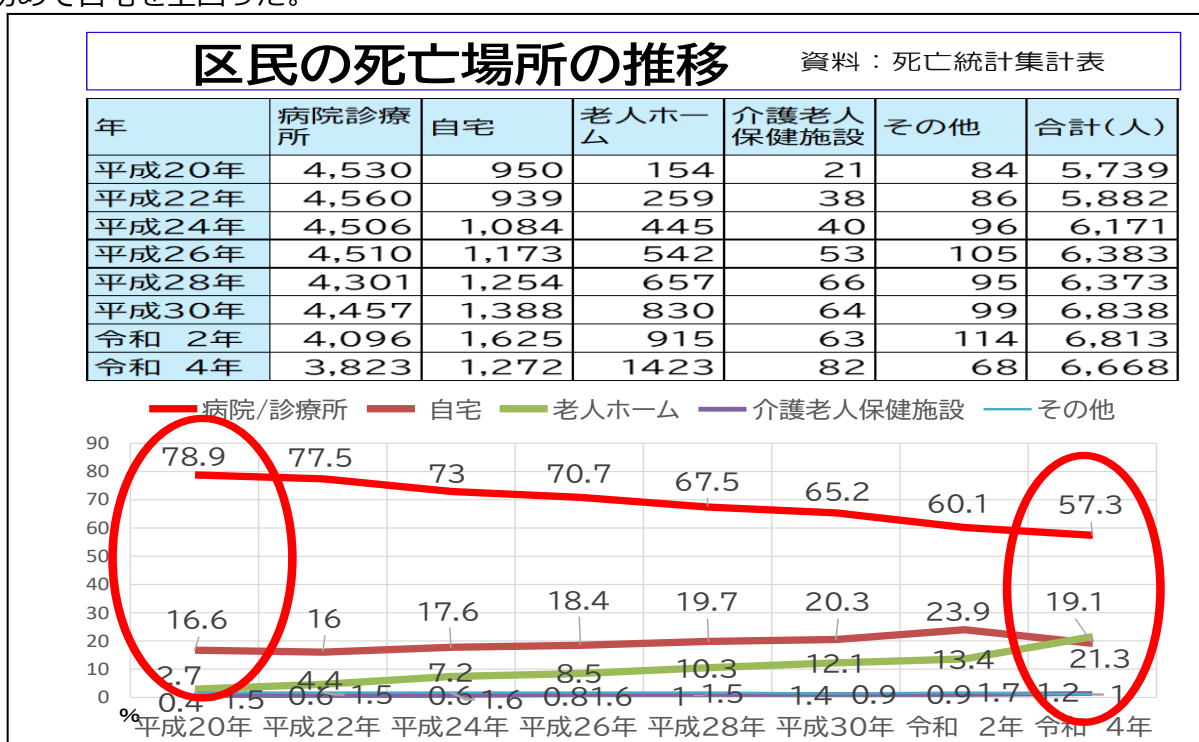
※総数 1、総数 2 の下のカッコ内の数字は総人口に占める割合

※総数 1 は、身体障害者手帳所持者・愛の手帳所持者（重複除く）・自立支援医療（精神通院医療）・難病

※令和 3 年の一時的な減少は令和 2 年度の新型コロナウイルス感染症により自立支援医療（精神通院医療）の更新申請が不要となったため

5) 区民の死亡場所の推移

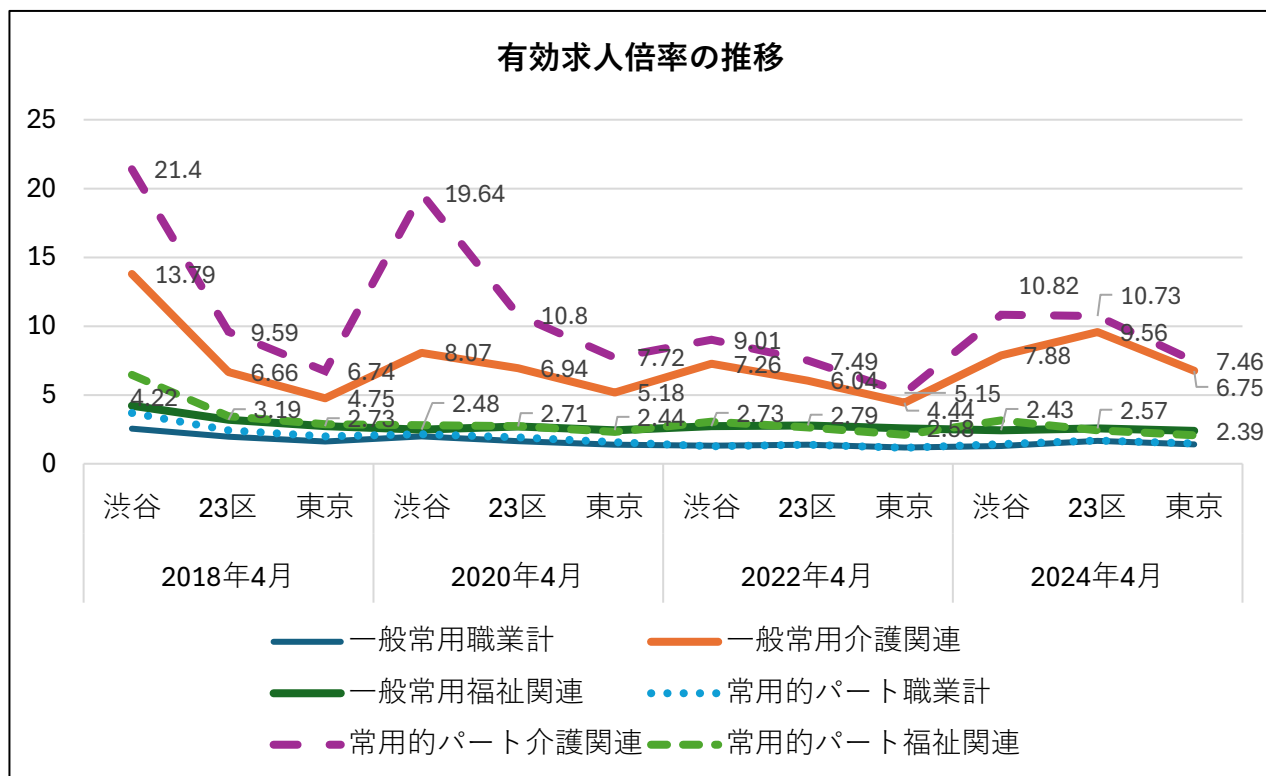
病院・診療所は平成 20 年 78.9%が令和 4 年 57.3%へ減少し、自宅は平成 20 年 16.6%が令和 4 年 19.1%に増加。老人ホームは、2.7%が 21.3%に増加。令和 4 年は老人ホームが初めて自宅を上回った。



Ⅱ 世田谷区の福祉人材を取り巻く状況と課題

1 福祉・医療分野での有効求人倍率の状況

世田谷区が含まれるハローワーク渋谷での介護関連の有効求人倍率は、2018年一般常用13.79、非正規21.4が、2024年には一般常用7.88、非正規10.73と減少しているが、東京全体と比べると、いずれも高い数値となっている。



	2018年4月			2020年4月			2022年4月			2024年4月		
	渋谷	23区	東京	渋谷	23区	東京	渋谷	23区	東京	渋谷	23区	東京
一般常用職業計	2.55	1.96	1.62	1.98	1.64	1.38	1.32	1.39	1.18	1.29	1.67	1.4
一般常用介護関連	13.79	6.66	4.75	8.07	6.94	5.18	7.26	6.04	4.44	7.88	9.56	6.75
一般常用福祉関連	4.22	3.19	2.73	2.48	2.71	2.44	2.73	2.79	2.58	2.43	2.57	2.39
常用的パート職業計	3.69	2.44	2	2.14	1.91	1.56	1.27	1.39	1.16	1.43	1.69	1.48
常用的パート介護関連	21.4	9.59	6.74	19.64	10.8	7.72	9.01	7.49	5.15	10.82	10.73	7.46
常用的パート福祉関連	6.46	3.46	2.87	2.81	2.74	2.31	3.07	2.65	2.1	3.15	2.42	2.07

介護関連：福祉施設指導専門員、福祉施設寮母・寮父、ケアマネジャー、家政婦（士）、ホームヘルパー等

福祉関連：保健師、助産師、看護師、理学・作業療法士、視能・言語聴覚士、福祉相談指導員等

2 世田谷区の福祉人材施策

事業名	開始年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和4年度	令和 5 年度
(1)研修体制の構築					
世田谷区福祉人材育成・研修センター	平成 19 年度				
(2)研修費助成制度					
特別養護老人ホーム等職員研修費助成	平成 20 年度	36 事業所	47 事業所	45 事業所	46事業所
登録ヘルパー等研修受講助成	平成 21 年度	19 人	68 人	133 人	90 人
(3)資格取得支援事業					
介護職員初任者研修課程等受講料助成	平成 21 年度	75 人 障害含	高齢 117 人 障害 25 人	高齢 70 人 障害 18 人	高齢 65 人 障害 12 人
介護福祉士実務者研修受講料助成	平成 29 年度	108 人 障害含	高齢 126 人 障害 12 人	高齢 121 人 障害 23 人	高齢 103 人 障害 10 人
介護福祉士資格取得費用助成	平成 29 年度	49 人 障害含	高齢 35 人 障害 8 人	高齢 58 人 障害 5 人	高齢 48人 障害 5人
(4)定着支援					
世田谷区介護職員等合同入職式	平成 29 年度				35人
世田谷区介護従事者等永年勤続表彰式	平成 29 年度				121人
デジタル環境整備促進事業	令和 3 年度		9法人 10 事業所	1 法人 1 事業所	1 法人 1 事業所
(5)人材確保支援					
介護職員等宿舍借り上げ支援	平成 30 年度	2 事業所 5 戸	3事業所 9 戸	4 事業所 18 戸	4 事業所 17 戸
介護人材採用活動経費助成	令和元年度	120 法人	119 法人	109 法人	109 法人
特別養護老人ホーム介護職員宿舍借り上げ支援	令和 2 年度	9 事業所 21 戸	12 事業所 31 戸	14 事業所 36 戸	14事業所 37戸
地域密着型サービス事業所等宿舍借り上げ支援事業	令和 4 年度			6 事業所 11 戸	11事業所 31 戸

○認知症介護サポート事業（特養ホーム等介護ロボット導入経費助成）（平成 30 年度～令和元年度終了）

○訪問系介護事業所への電動アシスト自転車購入費用助成（令和 2 年度のみ 175 事業所 297 台）

3 福祉分野の計画における福祉人材対策

(1) 第9期世田谷区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和6～8年度）

- 基本理念

「住み慣れた地域で支えあい、自分らしく安心して暮らし続けられる地域社会の実現」

- 施策展開の考え方

- (1) 参加と協働の地域づくり
- (2) これまでの高齢者観に捉われない施策
- (3) 地域包括ケアシステムの推進

- 計画目標Ⅰ 区民の健康寿命を延ばす

計画目標Ⅱ 高齢者の活動と参加を促進する

計画目標Ⅲ 安心して暮らし続けるための医療・介護・福祉サービスの確保を図る

- 重点取組み (1) 健康づくりと介護予防の一体的な推進

取組み：保健事業と介護予防の一体的な取組みの推進、食・口と歯の健康づくりの質の向上、介護予防のための外出・社会参加促進の取組み

- 重点取組み (2) 高齢者の生きがいづくり

取組み：高齢者の社会参加の促進への支援、総合的な連携枠組みの整備の検討、地域人材の発掘・育成・活用

- 重点取組み (3) 在宅医療・介護連携の推進

取組み：在宅医療・ACPの普及啓発、在宅医療・介護のネットワークの構築、在宅医療・介護関係者間の情報の共有支援

➡ 5 介護人材の確保 及び育成・定着 支援

急速な高齢化による介護サービス需要の増大と生産年齢人口の減少が見込まれ、介護人材の確保は喫緊の課題です。誰もが自分らしく地域で安心して暮らし続けられるよう、介護サービスの安定的な供給を図るため、福祉・介護人材の確保及び育成・定着支援のための施策を総合的に展開していきます。

- ①さらなる介護職の魅力発信 ②多様な人材の確保・育成
- ③働きやすい環境の構築に向けた支援

(2) せたがやインクルージョンプラン -世田谷区障害施策推進計画（令和6～8年度）

＜これまでの名称＞

せたがやノーマライゼーションプラン
-世田谷区障害施策推進計画



＜本計画からの新名称＞

せたがやインクルージョンプラン
-世田谷区障害施策推進計画

- 基本理念

障害のある人もない人も お互いの人格や個性を尊重して 住み慣れた地域で支えあい 選択した自分らしい生活を 安心して継続できる社会の実現

- 行動コンセプト

「当事者の選択を支える」環境整備 情報アクセスのしやすさ、体験や選択の機会の確保、多様な福祉サービスの整備、既存サービスでの障害児者の受入れ、再利用を尊重する仕組み。「選択」するための支援、理解しやすい情報提供、選択肢を提示、選択の結果と選び直しを尊重

- 重点取組 1 医療的ケア児（者）の支援

- 重点取組 2 精神障害施策の充実

●重点取組 3 人材の確保・定着

＜取組の方向性＞

- ・ 障害児者の自立を支援する技術やチームワークを学ぶ研修の充実
- ・ ボランティアを含めた新たな人材の確保に向け、障害理解を進めるための施策の推進
- ・ 施設や事業所の職員等の心身の健康を守る取組

- 重点取組 4 災害への備えの推進
- 重点取組 5 情報コミュニケーション・アクセス手段の確保
- 重点取組 6 インクルーシブ教育推進 に向けた土台づくり
- 重点取組 7 障害理解促進・差別解消

4 福祉人材確保・育成に関する調査概要と調査結果

調査目的	喫緊の課題である福祉人材確保に向けて、事業所の取組状況と課題等を調査し、解決策を探るとともに、好事例を収集し情報共有を図る。令和2年度から実施している特別養護老人ホームでの介護ロボット、外国人人材等調査の経年変化を調査する。
調査日程	令和6年10月15日～令和6年12月27日
調査方法	配付：FAX またはメール送信 回収：FAX・フォーム回答
対象事業所 及び 回答事業所	配付事業所数：1,431 事業所（高齢：1,163 事業所 障害：268 事業所） 回答事業所：412 事業所（高齢：335 事業所 障害：77 事業所） 回収率：24.7%（高齢：23.4% 障害：5.4%） 回答事業所数：560 事業所（高齢：443 件 障害：117 件）
事業所種別	高齢分野： 訪問介護、通所介護、訪問看護、短期入所、特定施設入居者生活助護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能・看護小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、居宅介護支援、地域包括支援センター、福祉用具、都市型軽費老人ホーム 障害分野： 居宅介護・重度訪問介護、同行援護、行動援護、生活介護、自立訓練、GH、短期入所、児童発達支援、放課後等デイ、相談支援、休養ホーム、身体障害者福祉ホーム
調査項目	（1）事業所職員の過不足状況（2）介護ロボットの状況（3）ICTの導入状況 （4）外国人職員在籍状況 （5）人材確保・定着支援（障害者雇用・常勤職員定年年齢 （6）補助的業務の活用（7）インターン・社会福祉士等実習生等受入れ 等

参照 令和6年度 福祉人材に関する世田谷区福祉事業所調査報告書

ホームページ＞調査・研究報告＞令和6年度調査報告

＞令和6年度福祉人材に関する世田谷区福祉事業所調査

令和6年度
福祉人材に関する
世田谷区福祉事業所調査報告書

令和7年3月

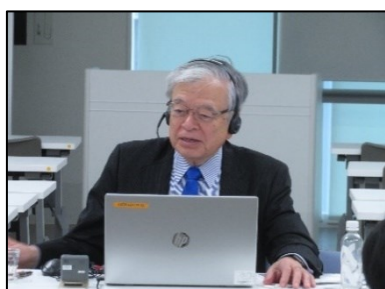
世田谷区福祉人材育成・研修センター

5 福祉の仕事の魅力向上・発信

(1) 福祉のしごと 魅力向上・発信シンポジウム

タイトル	住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる世田谷を目指して ～これからの世田谷の福祉と事業所の取組み～
目的	世田谷区の福祉の課題、福祉事業所調査から見える福祉事業所の現状と課題、事業所の実践報告から、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる世田谷を創るために、福祉のプロとして何をなすべきか・・・ともに考える。
開催方法	研修センターから講演内容を Zoom 配信し、視聴者の質問をチャット等で受け付け回答する。内容は後日、研修センターホームページで録画配信する。
開催日	ライブ開催：令和7年3月24日 録画配信：令和7年4月1日～
内容	第1部 「世田谷区福祉事業所調査から見える現状と課題」 進行 中村 秀一氏 世田谷区地域保健福祉審議会会長 報告 世田谷区福祉人材育成・研修センター 瓜生 律子 討議 事業所報告登壇者 チャットで参加者からの質問を受ける 第2部 事業所の実践報告 進行 中村 秀一氏 ①「介護現場における ICT IOT 活用による生産性向上の取り組み」 特別養護老人ホーム 弦巻の家 藤巻 佳祐氏 ②「一人ひとりの思いを尊重し、自立支援介護に取り組む」 地域密着型 特別養護老人ホーム ハートハウス成城 守屋 徹氏 ③「小規模多機能居宅介護でのお看取り」 小規模多機能ホーム三宿 長谷川 裕和氏 ④「最期まで口から食べるために 『もぐもぐチーム』の取り組み」 世田谷区社会福祉事業団 訪問看護課 竹内 洋子氏
対象	世田谷区内でサービスを提供している医療・福祉サービス事業所職員

ホームページ＞福祉の理解・福祉のしごと・先駆的な取組み＞福祉のしごと・先駆的な取組み
＞先駆的な取組みシンポジウム



第1部「世田谷区福祉事業所調査から見える現状と課題」資料より（抜粋）

派遣職員活用事業所の割合



・紹介会社経由でなくとも人材獲得できるような体制づくりが必要。
 ・介護職員の人員不足が顕著であり、非常勤介護職員も不足していることから、派遣職員、パートや補助業務職員を採用している状況。
 ・費用が運営を圧迫し、入居者や職員の為に使う収入が業者に流れていることを危惧している。
 ・明らかなミスマッチを紹介会社が進められて”乗せられて”いるケースも多々ある。実態を調査する必要がある。
 ・非常勤職員（登録ヘルパー）で最近アプリでマッチングする人が増えてきた。利用者に対する責任感が低く、同行訪問の手間や「すぐ変わる」という利用者からの事業所への不信感が増す。

5

職員の不足状況

- ・他産業と比べ賃金が低く職業の選択として、介護職が選ばれにくい。
- ・お金をいくらかけても全く応募なしの状況（常勤も非常勤両方）
- ・多様な働き方を受入れることで人材補充を行っているが、人員確保に伴う人件費が増大。
- ・若手が入ってこない。次世代の育成が人材不足でできない。
- ・職員が平均65歳以上のため、労災の危険性が高くなっている。将来、先細りになる。
- ・一見充足しているようだが、お客様相手の仕事なので、お客様のその日の状態によっては、休憩もできない程の忙しさになります。個々の能力差も凄いです。
- ・訪問時の暑さ寒さ、一人での訪問のプレッシャーなどで、早期に退職する職員がいる。
- ・常に職員募集をしている。採用者したい対象者、人材が少ない。
- ・人口減少による人材確保がさらに困難になることが予想される。
- ・報酬が上がらないため、賃金を10年以上据置。満足する賃金で雇用できない。
- ・支援員は無資格・未経験職員を積極的に採用し、内部教育を行うが、OJTのコストがかかる。
- ・パートは扶養の壁があり、もっとシフトに入ってもらいたいが入ってもらえないことがある。
- ・利益が上げられないので、将来を見据えた雇用なども難しく、常にぎりぎりの綱渡り状態。
- ・人材が集まらないため、教育が行き届かない。集合研修を行うことが難しい。
- ・根拠を示すことができる介護者教育（データ活用）

6

介護ロボットの導入

導入事業所 99件/412件(24.0%)

	睡眠センサー 件/%	見守りセンサー 件/%	睡眠センサー・見守りセンサー 件/%	移乗支援機器 件/%	移乗支援機器 件/%	スライディングボード・シート 件/%	コミュニケーションロボット 件/%
導入予定事業所数 (n=99)	41/41.4	29/29.3	15/15.2	29/29.3	6/6.1	62/62.6	9/9.1
導入予定事業所数	11	11	12	11	8	5	5
1.利用者のADL改善	10/24.4	3/10.3	5/17.2	5/83.3	15/24.2	2/22.2	
2.利用者のQOL向上	24/58.5	7/24.1	9/31.0	3/50.0	13/21.0	8/68.9	
3.利用者の体調変化の早期発見	34/82.9	14/48.3	1/3.4	1/16.7	3/4.8	1/11.1	
4.職員の定着率向上	13/31.7	9/31.0	10/34.5	3/50.0	19/30.6	2/22.2	
5.事故防止	25/61.0	25/86.2	20/69.0	4/66.7	41/66.1		
6.職員の業務への安心感・負担軽減	35/85.4	19/65.5	24/82.8	4/66.7	52/83.9	2/22.2	
7.腰痛の改善・予防	2/4.9		27/93.1	2/33.3	55/88.7		
8.その他					1/1.6		
特養ホーム 件/29施設内中%	20/69.0	11/37.9	9/31.0	12/41.4	3/10.3	23/79.3	3/10.3
特養ホーム 件/導入事業所中%	20/48.8	11/37.9	9/60.0	12/41.4	3/50.0	23/37.1	3/33.3
介護老人保健施設	3/7.3	2/6.9	2/13.3			1/1.6	
グループホーム	5/12.2	9/31.0	2/13.3	3/10.3	1/16.7	9/14.5	
看護・小規模多機能型居宅介護	3/7.3	2/6.9	1/6.7				
特定施設入居者生活介護	6/14.6	1/3.4		1/3.4		9/14.5	1/11.1
通所介護	1/2.4	1/3.4		2/6.9		3/4.8	2/22.2
訪問介護・訪問看護	3/7.3	3/10.3	1/6.7	3/10.3	1/16.7	11/17.7	1/11.1
障害/グループホーム				1/3.4			
障害/生活介護				3/10.3		3/4.8	
障害/訪問介護				3/10.3	1/16.7	3/4.8	1/11.1

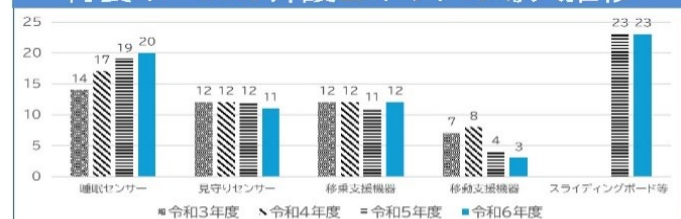
7

介護ロボットの導入と効果

【導入】令和4年度 66件/315件(21.0%) 令和5年度 97件/443件(21.9%) 令和6年度 99件/412件(24.0%)と年々、増加している。
 介護ロボットではないが、スライディングシート・ボードの導入が62件と一番多いが、全体の15%の導入にとどまっている。特養ホームでの導入は8割近い。
 特養ホームでは、睡眠センサー69% 見守りセンサー38% 両方導入が31%となっている。

【効果】①睡眠センサー：職員の業務の安心感・負担軽減、利用者の体調変化の早期発見、事故防止、利用者のQOLの向上が6～8割の効果を出している。
 ②見守りセンサー：事故防止、職員の業務の安心感・負担軽減、利用者の体調変化の早期発見に5～9割近い効果を出している。
 ③腰痛の改善・予防は、移乗支援機器93.1%、スライディングボード88.7%が効果を出している。

特養ホームの介護ロボットの導入推移



・この4年間で睡眠センサーの利用は大幅に伸びている。
 ・移乗・移動関係の機器、スライディングボード等はかわらない。特養ホームでは、移動支援機器の利用が減少している。
 ・介護ロボット等の職員の業務への安心感・負担軽減、利用者のADL改善や体調変化の早期発見、腰痛予防策としての効果について、さらなる周知が必要と思われる。
 ・利用率向上のためには、機器の選定方法、導入経費、活用のための研修、メンテナンス経費等、課題がある。

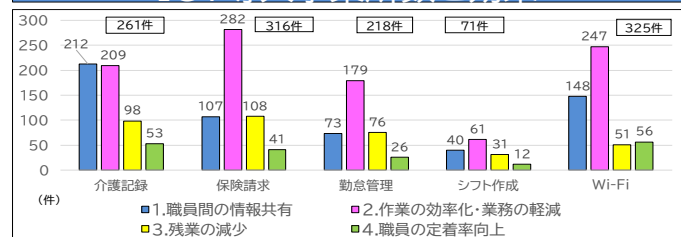
9

介護ロボットの課題

- ・訪問介護では利用者の金銭的な理由などから、福祉用具を準備しただけで、支援者は身体的に厳しい支援を要することがある。事業所で準備した福祉用具をその都度持ち運ぶのは支援者にも負担となる。
- ・スライディングボードなどを事業所負担で用意すると経費もかかるため、現状導入は予定していません。支援者を大事にしたいという思いはあるがなかなか踏み出すことはできていない。
- ・設置に課題な費用負担、誤作動があり調整に労力がかかる。耐用年数がどの程度か更新時にかかる費用が心配である。
- ・補助金に頼らざるを得ないことと、高価なものが多く、選定に時間を要する。
- ・機能を完全に使いこなせていない部分もあるので、研修や教育が必要
- ・機器類の扱いが不得意な職員に使用方法の教育に時間がかかる
- ・職員の負担軽減には繋がっているが、人員不足の解消までは至っていない。
- ・小規模事業所のため、大型の機器、高額な機器の運用は難しい。

10

ICT導入事業所数と効果



	介護記録	保険請求	勤怠管理	シフト作成	Wi-Fi
全体n412	261/63.3	316/76.7	218/52.9	71/17.2	325/78.9
高齢n306	233/76.1	280/91.5	191/62.4	60/19.6	273/89.2
障害n61	28/45.9	36/59.0	27/44.3	11/18.0	52/85.2
1.職員間の情報共有	212/81.2	107/33.9	73/33.5	40/56.3	148/45.5
2.作業の効率化・業務の軽減	209/80.1	282/89.2	179/82.1	61/85.9	247/76
3.残業の減少	98/37.5	108/34.2	76/34.9	31/43.7	51/15.7
4.職員の定着率向上	53/20.3	41/13.0	26/11.9	12/16.9	56/17.2

11

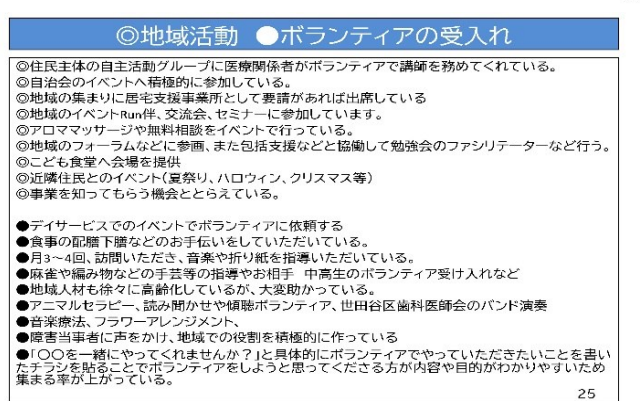
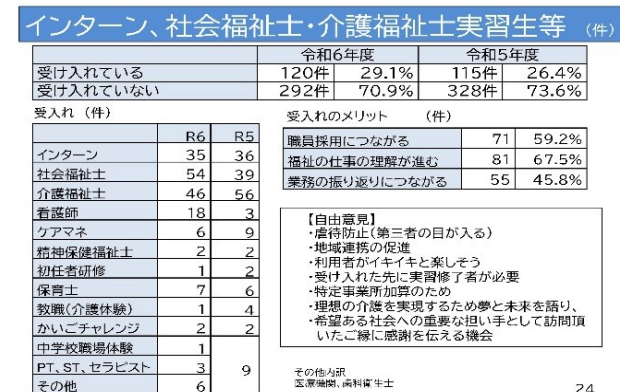
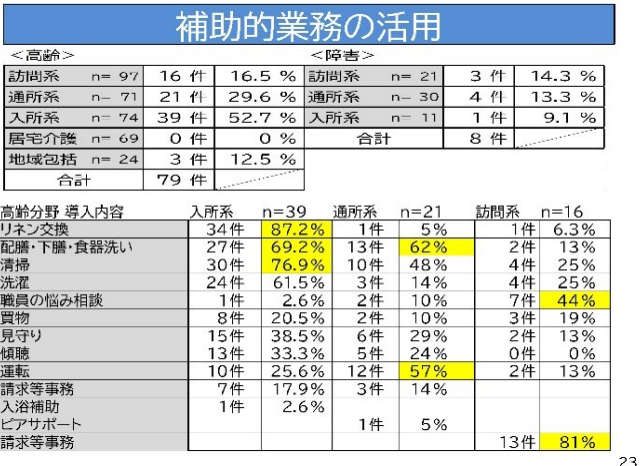
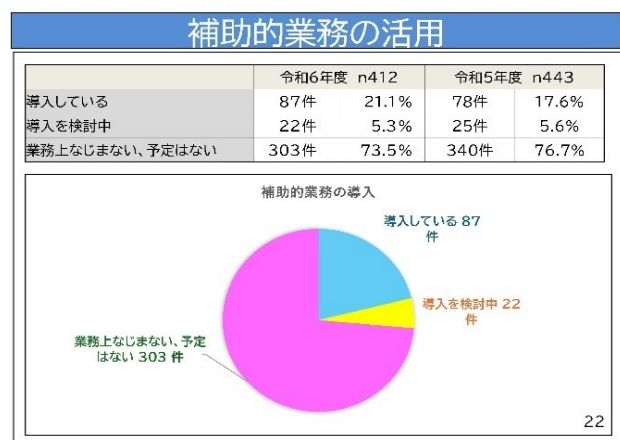
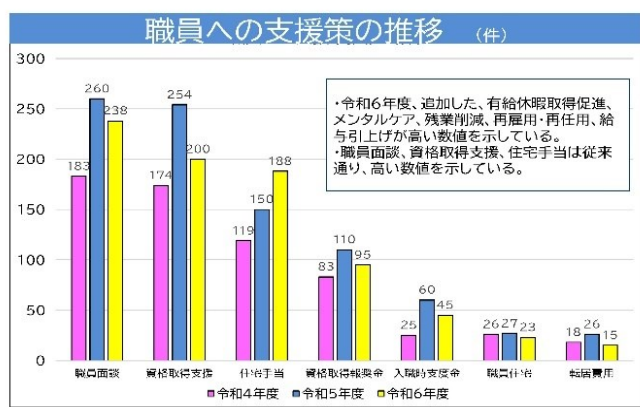
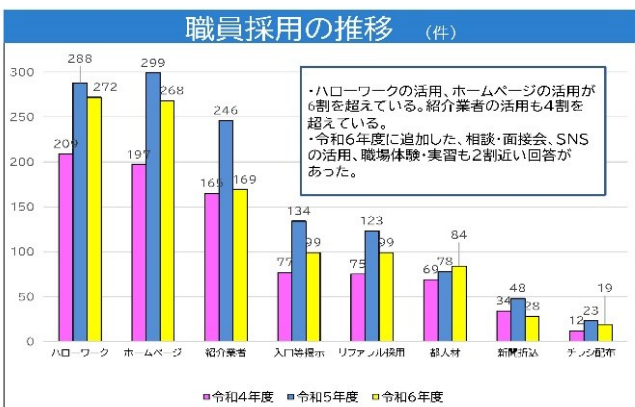
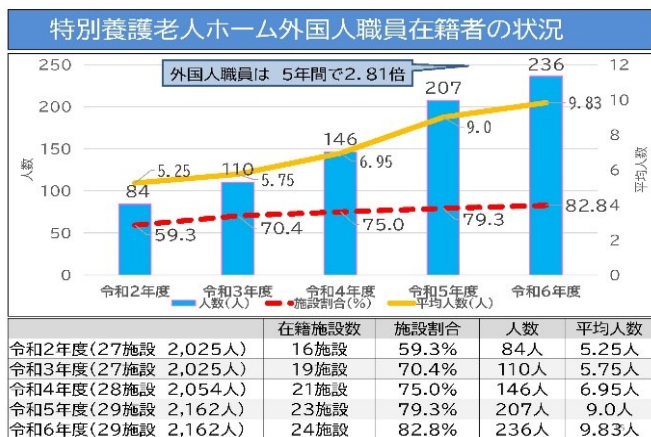
ICT導入効果と課題

【導入】保険請求システム76.7% 介護記録63.3% 勤怠管理52.9%導入。
 シフト管理は17.2%と導入率は低い。
 ※保険請求は法人で事務を行っているため、事業所では導入なしとの回答があった。

【効果】
 ①介護記録の効果は職員間の情報共有81.2%と高い。
 ②作業の効率化・業務の軽減は、保険請求が89.2%、勤怠管理82.1%、介護記録80.1%と高い。
 ③残業の減少、職員の定着率向上の効果はいずれも低い。

【課題】
 ①利便性向上、作業の効率化は図ることが出来るが、反面費用が高く会社運営の面で費用圧迫している。
 ②現場の高齢な従業員は使いこなせず、一旦現場で簡素化したものを考えて使えるように練習する必要がある。もしくは定期的に使っているかチェックする必要がある。
 ③導入を急ぎたいが時間と人手が足りない。
 ④ケアプラン提供票の共有が現在使用ソフトでは汎用化されていない

12



詳細：研修センターホームページ＞ 調査・研究報告＞ 令和6年度調査報告
 ＞ 令和6年度福祉人材に関する世田谷区福祉事業所調査報告

●シンポジウム第1部 質疑

人材不足人口減少社会であらゆる分野で、人材確保が大変だという声は聞くが、介護の現場での工夫

- ➡求人広告掲載、日々の施設の様子、活動をホームページやInstagram、SNSを活用して発信することは、採用活動の1つと職員に説明し、職員全員で採用活動に取り組んでいる。
- ➡リファラル採用にも力を入れている。知り合いに声をかけ、入職者、紹介者にも報酬が入る。
- ➡勤務帯や働き方も決めつけずに幅広い人材を探して施設の魅力をお伝えし、是非一緒に働いてみたい方を探している。
- ➡採用担当は法人の本部が担い、現場は施設見学の際にやりがいや魅力ある職場であること、働き方を紹介している。継続して働けるよう、職員同士が支え合い、意見交換しながら利用者の支援に取り組んでいる。
- ➡職場で何を学べるかが、入職希望者が求めているところがあるので、研修とか丁寧に行っている。

介護ロボットやICTのメリットは

- ➡見守りセンサー、睡眠センサーを導入して3年～4年、職員も取り扱いに慣れてきた。1番のメリットは職員の負担軽減と睡眠状況が職員の主観でなく、データとして把握ができ客観化できること。職員間の技量差、外国人の職員が増えている中で、介護の標準化ができること。
- ➡職員の負担の軽減は実感している。介護の仕事の経験がない、資格のない未経験の方も多く採用しているが、学生アルバイトも積極的に採用している中で、安心して仕事していただけることが定着率に直結する。未経験でも安心して仕事できることを、打ち出していくことで定着に繋がっている。
- ➡例えば移乗リフトはとても安心・安全になっていて、職員もしっかり使い方を研修した上で実践し、ロボットに全て任せるのではなくて、しっかりと職員が隣に付き添って利用者に声かけながら、ロボットの力を活用して職員の負担軽減というところにも繋がられるので、非常に良い。
- ➡ICTに関しては、どういう形で使えていくかはこれからの課題になってくる。AI技術が、この介護の世界のどういう形で利用がしていけるのかは課題と感じております。

外国の人の介護スタッフの採用

- ➡全体の介護職員のうちの4割近くが外国籍のスタッフで、介護福祉士の資格をもっている。同じ国の職員が複数いると、気が付くと本国語の会話になっている。日本で6年～7年という月日が経てきますると、結婚や出産などのライフイベントの問題が出ている。日本の社会のルールというものも理解していただき、その両方をどうやって尊重し合いながら折り合いをつけていくのかも検討している。
- ➡外国籍職員にすごく助けられているので、日本人と同じように働ける環境を作っていくことが何よりも大事だと思っています。いろんな国籍の職員が働きやすく働いてもらえるような職場環境に変えていく取り組みは非常に重要。

今後に向けて

- ➡良い調査にしていくために、事業所の皆さんから回答いただかなければなりませんので、次回は奮ってご回答いただきたい。そのことが、世田谷区内の事業所を良くすることにも繋がります。

●シンポジウム第2部 質疑

眠りスキャンから推察した鉄分補給で、1時間未満の睡眠が4時間に改善された報告

- ➡その眠りスキャンのデータを見て、ネットとかで色々調べた結果、鉄分不足だとその周期性体動指数が高くなる…。鉄分不足の仮説を立て試しに鉄分ヨーグルトで摂った結果、睡眠時間が伸びた。因果関係があるのかわからないが、職員の取り組みが成功事例として、形になり職員のモチベーションにつながった。

➡データをしっかり取られていて、そこが説得力というか、職員の納得につながり素晴らしい。睡眠以外にも生産性向上とか1人当たり何分の削減を示され、そういうことを出していくこと、数値化がすごく大事だと改めて思いました。

➡ガムを噛むことによって租借が数値化されるというのは、説得力があり同じようなことが言える。

不顕性誤嚥がホームで9人に1人と多いようですが、大体こういう発生率でしょうか？

➡担当の歯科衛生士もとてもびっくりしていました。普通に召し上がっている状態ですが、実際は気管の中に入っていて、誤嚥しているけども咽ることができないので、それが分かったことによって、ご家族の方に普通に食べているが、実は誤嚥されている・・・ということをご説明できた。咽ない誤嚥、ゲホゲホってならないが気管に入ってしまうっていうこと（不顕性誤嚥）が、よくあったと改めて思いました。

地域包括ケアシステム、医療と介護の連携

➡小規模多機能では、医療との連携はご家族との連携も含めて、担当のお医者様がいらっしゃるもので、そちらと連携、訪問看護師とも連携を取って、こちらでしっかりとケアをしています。

➡世田谷区の施設ガイドに医療的処置がどの施設で何ができるか・・・という一覧表があり、以前と比べて医療依存度の高い方が増えてきている。

➡ホームは生活の場で、入居者の暮らしをサポートする場所ですが、健康管理はかなり大事な要素で、協力医療機関との連携、配置医師との連携がしっかりとしていると、入居者・家族の安心感にも繋がる。協力医療機関との定期的なすり合わせ、ミーティング、配置医師とのコミュニケーションをとっている。

➡訪問看護ステーションとホームヘルプサービス、居宅介護支援事業所がそばにあるので、非常に連携が良くて、シームレスというか垣根がないのは良いです。最近、地域ごとに集まって連携する流れがある中で、色んな会が催されている。地域を大事にして連携していくのは、住民にとってもいいと思います。

世田谷区の死亡小票分析

➡昨年、世田谷区民がどこで亡くなったかを調べたら、病院関係・診療所が約半分、半分は自宅か高齢者施設という統計で、死因別では4人に1人はガンです。ガンの場合は施設よりは自宅の方が多い。4人に1人が老衰で、ガンで亡くなる人よりも老衰の人の方が若干多いが、老衰の場合は8割近くが自宅か施設で、高齢者施設で亡くなる方が自宅よりも多い状況です。看取りの問題が高齢者施設あるいは自宅で行ってくるので、医療との連携が益々これまで以上に重要になってきます。

終わりに

➡福祉の仕事魅力発信シンポジウムで、誰1人取り残さない地域社会の実現に向けて 誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けるために、4人の方の事例のご報告、それから福祉人材育成・研修センターの事業者調査の材料を提供していただいたので、少し世田谷における介護の姿が明らかになったのではないかと思います。こういう発信を通じて、今、日本で苦勞している医療や介護や福祉を支える人材の確保についても、現場をよく知っていただいて、そのやりがい、魅力についても、1人でも多くの方に理解していただくことが重要で、この分野に若い人たちが入っていただく第1歩になると思います。

本日はありがとうございました。

6 外国人職員交流会

タイトル	外国人職員交流会
会 場	世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 1 階会議室
開催日	令和 7 年 2 月 12 日（水）14 時～16 時
参加者	外国人職員 15 名 付き添い職員 12 名 区職員 3 名 その他 2 名
内 容	世田谷区の状況、世田谷区文化・国際課の取り組み紹介、吉本興業「外国人の方へのお笑いを通じた日本語教育」、自己紹介、グループワーク、発表

日本語での自己紹介をした後、5 グループに分かれ、各グループとも、終始楽しそうに話し合っていた。グループワークの発表を外国人職員が行った際、職場の先輩は「聞いていて、嬉しくて涙が出そうになった。頑張ったね。」との言葉もありました。

参加者は来日して、1 年以内 7 人、2 年以内 1 人、3 年以内 1 人、3 年以上は 3 人でした。

全員で記念撮影をして、国ごとに記念撮影をして、連絡先を交換して・・・交流が進みました。

（1）グループワーク

①日本で働くきっかけ

- ・ 自国で戦争が始まって、家にも兵隊が来た。日本は安全な国だと思う。
- ・ ベトナムの大学で看護師に合格し、日本は綺麗な国だと聞いて憧れていたもので、就職先を日本にした。また、アニメ映画に興味があった。
- ・ お友達に誘われて日本に来た。
- ・ 日本の桜が好きだから。
- ・ 日本に来て 6 年経つ。日本はやっぱり世界で 1 番安心・安全というイメージがあって、6 年住んだ今でもそのイメージは変わらない。
- ・ 日本は給料が良い、人も優しいので日本一択だった。
- ・ お姉さんが日本にいたので来ました。そして、アニメが好きで、日本に来ました。
- ・ 雪が見たいから。
- ・ 中学・高校からインドネシアで日本語を勉強していたので、活かしたくて。
- ・ 日本が好き、日本は綺麗な国。日本人はルールを守る。そういった国で働きたいのと、介護の仕事が好き、あとは桜と雪を見たかった。
- ・ 世田谷はとっても良いところ。安全です。夜帰る時でも安心。

②こまったこと

- ・ 日本語が難しい。介護の仕事は記録が多くて大変。地方で働いていた方は方言で困った。
- ・ 日本語ってひらがなも、カタカナも漢字もあるのでとても難しい。職場では記録が結構難しい。
- ・ 日本語がすごく大変で最初はストレスが溜まっていたけど、1 年ぐらいすると慣れて今は困っていないことはない。
- ・ 日本人は喋り方が早い。ゆっくり喋ってもらえると嬉しいです。
- ・ 専門用語も難しい。
- ・ 介護職の夜勤で・・・生活のリズムが崩れて体調とか、整えるのが大変。
- ・ 最初の頃に、介護しようとしたら、利用者さんから「ダメ」って言われて介護させてもらえなかった時はもう涙が出るくらい悲しかった。今は慣れ介護に入らせてもらっている。
- ・ 日本の文化かな？国が違うから文化が違ってそれも困ったなと思います。
- ・ インドネシアでは豚肉がダメで、食べ物を買いに新大久保まで行かれている。
- ・ 食べられないものとか多いので、ハラルのお店が世田谷にあればいい。

- ・日本の食べ物がまだ慣れない。
- ・豚肉とか食べられないが、ハラルの店も増えてきたので少しずつ通っている。
- ・日本の水が苦手な髪が抜けたという話があって、髪の毛がいっぱい抜けた、シャワーとか水が合わない。
- ・日本でゴミの分別ってミャンマーと違うからそれも困ったなと思います。
- ・もう少しお給料が上がってほしい。円が安くて困ってる。

③やりがい

- ・言いたいことを伝えられない時に職場のリーダーが気にかけて声をかけてくれると嬉しくてやる気が出る。
- ・利用者さんの笑顔や感謝の気持ちをいただけるとやりがいを感じる。
- ・職員のモチベーションも高く、介護以外の仕事にも挑戦していきたい。
- ・利用者さんと話しをするのがとても嬉しい。利用者さんに絶対楽しんで欲しい。利用者さんの笑顔が見たい。利用者さんの笑顔があったら楽しいと思います。
- ・利用者さんとおやつを作ったりするのも嬉しい。
- ・一般的に日本人の皆さん優しい。前の職場ですごく優しい良い先輩出合って良かったって思う。
- ・やりがいは職員の人たちはみんな優しく、利用者さんに日本語を教えてもらった。
- ・利用者さんから、毎日楽しいという言葉が聞けて、とっても嬉しかった。
- ・利用者さんからありがとうねと言われ嬉しい。レクが色々あってレクする時、みんなも楽しいって声があり嬉しい。

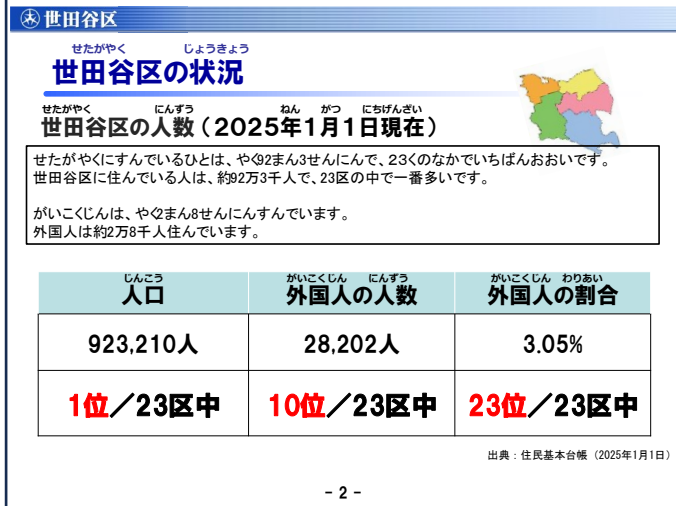
④こうだったら良いと思うこと

- ・もっと職員を増やしてほしい。日本人や外国人問わず職員を増やして欲しい。
- ・給料は変わらないのに物価が上がって困っている。
- ・物価が高いので、もう少し物価が安くなってほしい。
- ・みんなの前で大きい声で注意されるのは嫌。注意は1人でいる時にしてほしいと思います。
- ・他のスタッフから、応援して欲しいですね。それから同じ外国人からなんか教えてもらいたい。
- ・日本語がね、まだ、できないので同じ国同士、教えればよく理解できます。
- ・介護の勉強とか介護福祉士を取るためにサポートとか欲しい。研修とか参加したい。

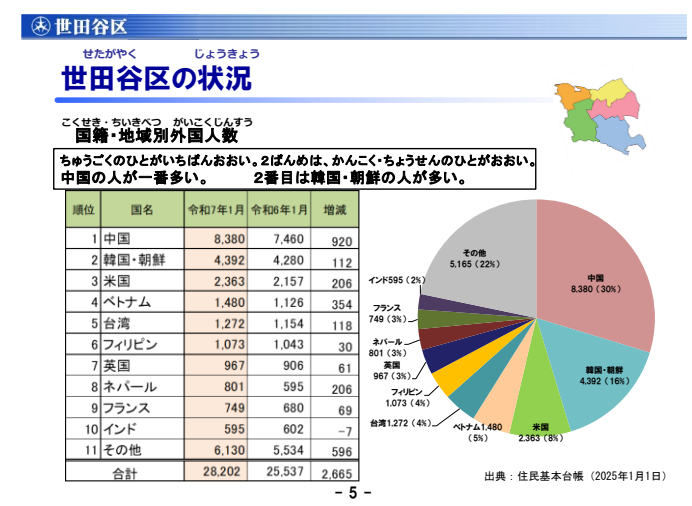
⑤これからの夢

- ・介護福祉士を取ってずっと日本でやっていきたい。
- ・介護福祉士を取るのが夢。
- ・自分の国に戻ってお友達と施設を作りたい。自分の技術を高めたい。
- ・老人ホームを作りたい。ミャンマーに帰ったら社長になりたい。日本人になりたい。
- ・これから介護福祉士を取って両親を日本に呼びたい。
- ・ミャンマーに帰って自分で施設を作りたい。N1の資格を取りたい。
- ・介護以外でやりたいこと、行きたいところでは、北海道とか大阪とか、あとは富士山に登りたいとか、田舎の方に行きたい。
- ・語学の勉強がしたい。日本に永住したい。N2・N3とか日本語のレベルもっと上げたい。

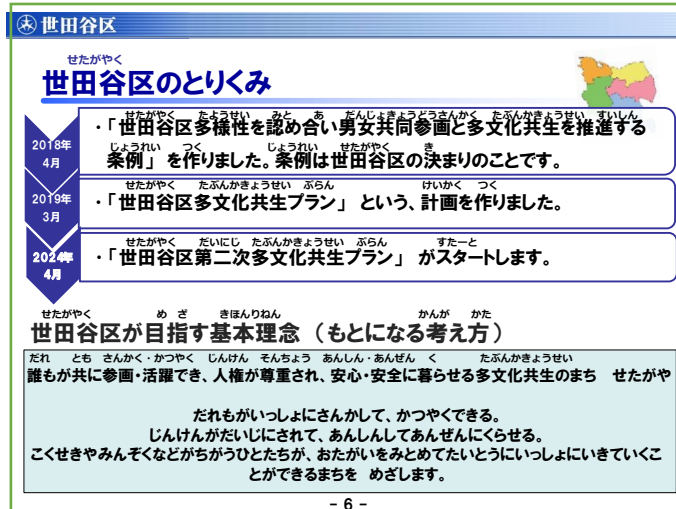
(2) 世田谷区国際課による世田谷区の実践(抜粋)



- 2 -



- 5 -



- 6 -



- 10 -



自己紹介…皆さん、日本語がとてもお上手です。 グループワーク…楽しく盛り上がりました。



集合写真



全員で記念撮影

7 令和6年度の研修センターの主な取組み

(1) 福祉の理解促進

1) 夏休み小・中・高校生福祉体験

事業概要	次世代を担う小学1～6年生親子、中学生、高校生を対象に介護施設の紹介や介護体験を行うことで、福祉について身近に感じてもらい、福祉の理解を促進する。
日 程	令和6年7月29日～8月21日（7日間、14回）
開催方法	対面
参 加 者	参加者 394 名（保護者含む） 申込者 483 名
内 容	（1）「新しい介護～特別養護老人ホームの取組み」動画視聴 （2）車いす・介護ベッド 動画視聴・体験 （3）「リハ・スポーツの取組み」動画視聴 （4）ボッチャ体験
周知方法	区内小・中学校、図書館、児童館、まちづくりセンター等でチラシ配布。区のお知らせの掲載、すぐる（学校緊急連絡情報配信サービス）、区内一部高等学校へのポスター配付

テキスト



体験の様子「車いす体験」



ボッチャ体験



<参加者の声>

- ・街のなかには色々な工夫があることが分かりました。知ってみると色々なことを調べてみたいと思いました。
- ・福祉の工夫、道具についてよく分かりました。とても楽しかったです。
- ・いろんな人がいる事、使っている機械や車いすを身近に感じることで、周りに少し意識を向けてくれる子になってもらえると思った。
- ・（ユニバーサルデザインの）自動販売機ボタンの位置が工夫されていることに気づきませんでした。街中で探してみたいと思います。
- ・誰もが幸せにらせる社会になるよう、今日学んだことを生かしていきたいと思います

<今後に向けて>

- ・実際に車いす・介護ベッド体験ができ、「体験できてよかった」「工夫が知れた」という意見が多く、講義から体験を行なう事で理解が深まった様子が見られた。今後も体験する事で福祉に興味を持ってもらえるよう、取り組んでいく。

- ・実際に車いす・介護ベッド体験ができ、「体験できてよかった」「工夫が知れた」という意見が多く、講義から体験を行なう事で理解が深まった様子が見られた。今後も体験する事で福祉に興味を持ってもらえるよう、取り組んでいく。
- ・学校などで車いす体験などを行う「福祉の出前入門講座」も実施しており、夏休み福祉体験とあわせて福祉の理解促進につなげることができるように取り組む。

2) せたがやシニアボランティア研修

事業概要	高齢者の社会参加、地域貢献を推進し、自らの健康づくり、介護予防に役立ててもらうとともに、要介護・要支援者に対する、区民の主体的な地域支え合い活動を育成・支援することを目的に、せたがやシニアボランティア活動に参加するための研修を実施。研修内容は施設動画視聴、事業概要の説明、実際にボランティアをされている方のインタビュー動画視聴。
実施回数	年 7 回（集合 5・7・9・11・2 月 動画配信 8・12 月）
会 場	世田谷区福祉人材育成・研修センター 他、区内施設
参 加 者	集合 5 回 139 名 動画配信 2 回 50 名

<参加者の声>

○集合研修

- ・年齢を重ねるごとに、身体と精神との差が広がっている。今の医療・福祉の経験を活かして、力になればと思い参加した。自分自身もいずれお世話になるため、できる間は貢献したい。
- ・資料が分かりやすくまとめられていて、内容もパワーポイントに沿って理解しやすかった。自分の老後についても考える機会になり、大変良い学びになった。
- ・活動を始めるためだけでなく、自分自身のためにも大変参考になった。特に高齢者安心コールやシニアボランティアを始めるにあたっての動画など。
- ・ボランティア活動がいかに多岐に渡っているかが分かり、非常に驚いた。自分にもできることがあればと思う。
- ・既に自主的に 4 か所のボランティア活動をしているが、保険が無料になることが分かり良かった。
- ・ボランティアさんの体験談は素晴らしかった。20 年も毎日のように施設でボランティアを続けていらっしゃるの、普通ではないと感じた。いきいきとして若い。体験談がとても参考になった。
- ・認知症ケアには、その方を正しく捉える、偏見を持たず、幸せになってもらいたいという気持ちをもって、ケアする。デイサービスでボランティアをされていた方が、とても素敵だった。
- ・やはり大切なことは、相手を尊重し、ボランティアとして施設職員と連携して楽しく過ごせるようにことかと思った。
- ・こちらから施設にコンタクトを取る方法が、やや敷居が高い。施設がボランティアを募集していただいた方が、連絡を取りやすい気がする。
- ・認知症の方に対するボランティアの姿勢、態度などが良く分かった。

○オンライン研修

- ・決まった日時でなくても、自分の都合の良い時にボランティアが出来る事分かり、気持ちに余裕が持てた。
- ・オンライン研修を見るまでは何をするのかわからず、少し躊躇する気持ちもあったが、内

容が分かったことによって、できるかもしれないなという気持ちになった。

- ・各御担当者様の説明と資料により、理解しやすい研修だった。ボランティア活動については、自分の体力・健康状態も考慮の上、前向きに検討したい。
- ・動画視聴とテキストを使った研修は、とても理解しやすかった。芦花ホームと弦巻デイサービスの具体的なお話も大変参考になった。
- ・世田谷区の高齢者の現状及びシニアボランティア未経験者にとってどのような手順で活動を始めたら良いのかが理解できました。
- ・自分の空いた時間で受講期間も幅があって聴講しやすいと思った。
- ・資料と画面を照らしながら、受講できたので良かった。

＜今後に向けて＞

- ・動画視聴による研修を引き続き 2 回開催し、どなたでも参加しやすい研修を提供する。
- ・デイサービス以外のボランティア活動をしている方のインタビューを追加していく。
- ・集合研修の開催場所は、区内の各地域で開催できるように配慮する。

3) 手話カフェ

事業概要	手話を通して、福祉の理解促進を図る。誰でも気軽に参加できるよう、基本的な内容を中心に実施。保健医療福祉総合プラザの運営管理者協力事業
実施回数	月 1 回 （ 1 2 回開催 ）
定 員	各回 20 名
参 加 者	延べ 275 名
周知方法	区の掲示板（プラザ近隣の掲示板）、区役所等

＜実施方法＞

- ・聴覚障害者協会の方を講師に迎え、東京都発行の「話そう 手のことば おもてなしの手話 B O O K」をテキストに、手話の初めの一步を気軽に交流を深め、楽しみながら学ぶ。手話を通し福祉の理解促進を図る。
- ・さらに学びたい方には区の手話通訳講習会を紹介する。
- ・今年度は、パワーポイントを使用し、よりわかりやすく学べるよう工夫した。



＜参加者の声＞

- ・とても楽しく勉強できました。また参加したいです。
- ・初めてでしたが、楽しく学べました。
- ・楽しく学べてもっと手話を学びたいと思いました。
- ・大変楽しく無理なく教えて頂けることに感謝しています。
- ・少しずつ覚えてきたことが表現できるのが嬉しいです。
- ・実際にコミュニケーションをとりながらの手話で、手話を使うイメージができました。

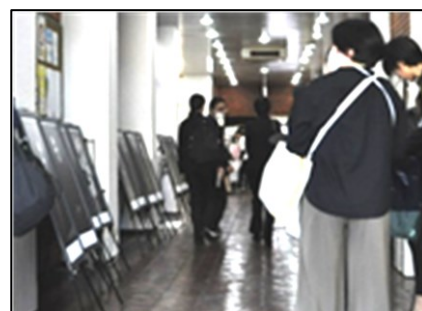
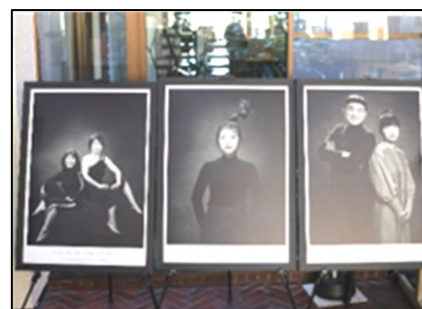
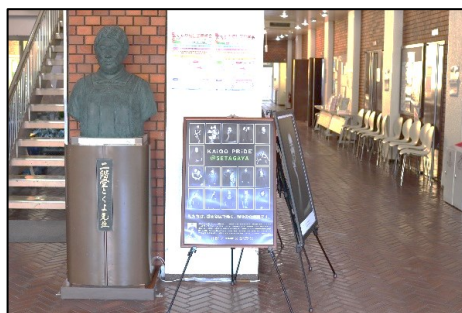
<今後に向けて>

- ・当事者である聴覚障害者協会の講師が「福祉のこころ」について、丁寧に教えてくれるので、福祉の理解が進んでいる。引き続き、手話を通して福祉の理解促進に取り組む。
- ・より多くの方が手話に興味を持ち、ステップアップしたいと思うきっかけになるようにしていきたい。

4) 「KAiGO PRiDE @SETAGAYA」写真展

事業概要	日々介護の仕事に取り組んでいる介護職への敬意と感謝を表し、介護職員の介護の仕事への熱い思いや魅力をポートレートとメッセージをとおして発信する写真展
日程 (会場)	5月24日～30日 都庁展示（都庁第1庁舎） 6月1日 福祉のしごと入門講座、相談・面接会（成城ホール） 約110人 9月3日 福祉のしごと入門講座、相談・面接会（三茶しゃれなあど） 約120人 9月28日 在宅療養講演会・シンポジウム（保健医療福祉総合プラザ） 約110人 10月2日 福祉のしごとイベント（保健医療福祉総合プラザ） 約120人 10月19日 うめとびあフェスタ（保健医療福祉総合プラザ） 約1000人 10月26日 訪問看護の就労支援講座（保健医療福祉総合プラザ） 約40人 11月9日 せたがや福社区民学会（日本女子体育大学） 約450人 1月28日 福祉のしごと入門講座、相談・面接会（保健医療福祉総合プラザ） 約80人 2月1日 福祉用具展示会（保健医療福祉総合プラザ） 約1800人 2月7・8日 「ピア～まちをつなぐもの」上映会（保健医療福祉総合プラザ） 約400人 2月12日 外国人職員交流会展示（保健医療福祉総合プラザ） 約35人
周知方法	ちらし・ホームページなど

<開催風景>



<来場者の声>

- ・表に出るということがいいと思う。
- ・生き生きと皆さま誇りを持っていらっしゃるように感じた。
- ・写真のような分野で取りあげるのは魅力が違った角度で伝わると思い良かったです。
- ・素敵だと思いました。
- ・かっこいい！プロの表情だと思った。
- ・良い試みだと思う。
- ・みなさん本物のモデルさんのように格好良く、おしゃれ、タイトル通りの「介護のプライド」を感じる写真だった。
- ・どの写真も大変かっこよく、おしゃれな感じが良かった。また各メッセージが素晴らしかった。
- ・写真のみなさんかっこいい。言葉に力強さを感じ説得力があり、いいプロジェクトだと思う。
- ・どの写真も素敵だった。介護する方たちのもう1つの姿を見る機会、大切だと思う。
- ・日本以外の方もいらしかったのが印象的だった。
- ・その人の雰囲気がとても伝わってきた。
- ・写真でイメージは変わるのだと思った。
- ・継続的な取り組みで良いと思う。
- ・おもしろい。
- ・どういう職種かわかったらよかった（プライバシーがありますが）
- ・モノクロでとてもかっこよかったです。下のことばも素敵でした。
- ・素敵ですね
- ・白黒でスタイリッシュ。白黒なのにいきいきとした印象。
- ・かっこよかった。世にもっと認められて、従事者の処遇改善につなげてほしい。世界的なイベントにしても良いと思う

<今後に向けて>

- ・区内各所で開催される「福祉の仕事 相談面接会」「せたがや福社区民学会」等で、「KAIGO PRiDE@SETAGAYA」写真展を開催し、「福祉のしごとの魅力」を発信していく。

5) ピア～まちをつなぐもの 上映会

事業概要	在宅医療に懸命に取り組む、若き医師と仲間（ピア）たちの命と希望の物語「ピア～まちをつなぐもの」を上映します。医師、ケアマネジャー、訪問看護師などの多職種が連携し、在宅医療と介護、看取りに取り組む姿を描いた心温まる感動作 ※保健医療福祉総合プラザの運営管理者協力事業
実施	令和7年2月7日8日 1日3回上映
会場	世田谷区立保健医療福祉総合プラザ1階 研修室C
参加者	延べ 400名
周知方法	ちらし・ホームページなど
開催	うめとぴあ 上映会実行委員会（代表 研修センター）

＜周知チラシ・開催風景＞



＜来場者の声＞

- ・訪問介護のスタッフをしています。その人らしく生きるために私たちに何ができるか、改めて原点に戻って考えるきっかけになった。
- ・涙が止まりませんでした。
- ・介護は今後、お世話になる番。迷惑にならないように頑張ります。
- ・ケアマネです。初心に戻りました。「ピア」を大事にします。
- ・理想的な多職種連携です。一般の方に見てもらいたい。
- ・久しぶりに寝ずに見た。最後の歌も良い。
- ・笑顔っていいと思った。在宅の見事なチームが実際どれくらい行われているか？と思った。
- ・医者に見て欲しい。現場のことを理解してもらえる良い映画でした。
- ・ACPの参考にします。様々な方や学生にも見て欲しい。
- ・在宅医療についてわかりやすく、大切なメッセージが込められていると思いました。
- ・最期まで幸せに生きるために色々な職種の方々が手を尽くしていることに気づきました。人の気持ちと余命に寄り添う大切さを感じるとともに難しさも感じました。
- ・医療・介護を担う方に負担がかかりすぎないように人員を増やすよう国は取組むべきと思う。
- ・最期まで人間らしくその人らしく生きることは大切ですね。
- ・地域医療を通じて医師が成長する姿に感動しました。人は一人では生きていけない。皆で支え合って生きていくものと改めて思った。
- ・良かったです。人に勧められます。
- ・とても感動しました。医師の変化が良かったです。
- ・病院医療と在宅医療の差と自分らしく生きることの大切さがためになりました。
- ・在宅医療の大切さを知りました。

- ・病院で最期という選択ではなく在宅でチームに支えられ、死に直面する姿は感動的でした。一人ひとり細かいところまで、ケアされているのも素敵に描かれていました。
- ・在宅の看取りをした。実際にはもう少し大変でした。今後、恩返しできたらと思う。
- ・とても感動し泣けてしまいました。このような医師、ケアマネに巡り合うことを望みます。
- ・在宅の多職種連携がわかりやすかったが、現実人手不足で難しい。医師は優しい人ばかりでないのを経験している。
- ・在宅医療は医師だけでなく様々な関係者の協力が必要と知りました。大変参考になりました。
- ・感動しました。素晴らしい映画と思いました。ピアの意味が分かり、色々な職種の人が連携する見事な在宅医療。これはあくまでも理想。夫の時、医師は機械的、事務的ですぐに帰ってしまった。
- ・医療、介護というより生きる大切さを感じた。
- ・家族と在宅医療チームの信頼や言葉のかけ方、日々の過ごし方の大切さを考えさせられた。
- ・多職種連携がわかりやすかった。専門職の役割や連携の理解を深めることができた。
- ・ピアの言葉に隠されている深さを感じた。・在宅医療の奥深さが知れてよかった。
- ・医療従事者だけでなく介護従事者の観点の内容も見たい。
- ・ケアチームが現実社会に根付いてくれたらありがたい。
- ・23年介護をした。このような作品を見ていたら接し方、感じ方がもっと違ったのではと思った。
- ・現実では、従事者の負担が大きい。人もいない。介護人材の待遇改善が必要。
- ・介護しているがこのようなケアマネ、医師はいない。もっと若い人に見てもらいたい。
- ・医師に物言えるケアマネが増えると良いと思う。
- ・とても勉強になりました。身の回りにもこのようなサポートがあると思うと心強い。
- ・在宅を支える在宅ケアがわかりやすく描かれていた。支える方々に自信を持って欲しい。
- ・在宅ケアチームが家族患者を大きく支えることを改めて感じた。父母を思い出しながら見た。
- ・現実にこんなケアマネ会ったことない。リーダーは私だという人が多い。
- ・自分が亡くなる時、多くの人に囲まれて自宅で亡くなるのも良いと思いました。
- ・理想的な多職種連携の終末医療の形でした。
- ・在宅介護は患者に対して医師が誠実に向き合い、チームワーク良く対処すること

【主催者へのメッセージ】

- ・今後、さらに在宅ケアは増えると思う。望む方が地域で暮らせるようもっと上映すると良い。
- ・シリーズを見たい。また上映会を企画して欲しい。(多数)
- ・皆が協力して作り上げた映画、素晴らしかったです。開催してくれて感謝(多数)
- ・高齢化の時代。いい企画でした。・映画のようにチームが育っていくと良いが・・・。
- ・在宅医療の在り方がわかりました。
- ・身近な題材でチーム一丸となって、取り組む姿を見て、こういうチームなら任されると改めて思った。別のシリーズも見たい。
- ・素晴らしい映画を選択して下さりありがとうございました。
- ・まちをつなぐもの～というタイトルがぴったりだと思いました。
- ・忘れてはいけない大切なことを伝えて下さい。・もっと宣伝して、もっと多くの人に見て欲しい。
- ・想像以上に良い映画で、見に来てよかった。・良い映画を見て気持ちを新たに頑張ろうと思った。
- ・開業医が大変ということを少しでも皆さんが理解して欲しい。
- ・地域の方に在宅ケアを浸透いただきありがとうございます。

(2) 福祉人材の確保・育成・定着支援

1) 基礎的な資格取得・学びの場

介護や介護の仕事が未経験で、新たに介護の仕事を目指す方が不安なく仕事ができるように、介護に関する基本的な知識や技術を学ぶための研修、資格取得のための研修として次の研修を実施している。

研修名		内 容	
① 介護に関する入門的研修	対 象	介護の仕事に関心のある区民	
	日 程	9/4～10/2、5日間、21時間	
	方 法	講義・演習（集合）	
	修了者／受講者	26名／29名 (39歳～81歳 平均年齢 59.75歳)	
② 介護職員初任者研修	対 象	介護の仕事に従事する、または希望する方。家族等のために介護の知識や技術を学びたい方	
	日 程	第1回 5月10日～7月4日 第2回 9月6日～10月31日 22日間、130時間	
	方 法	講義・演習とも研修センター（介護実習室）での集合研修	
	修了者	① 16名（40歳～67歳 平均年齢 54.37歳） ② 10名（20歳～70歳 平均年齢 48.8歳）	
③ 同行援護従業者養成研修	一般課程	対 象	区内で同行援護サービスに従事する意思のある方
		日 程	4月24日～26日 3日間、21時間
		方 法	講義・演習：研修センターでの集合研修
		修了者／受講者	19名／20名（34歳～75歳 平均年齢 57.7歳）
	応用課程	対 象	同行援護従業者養成研修(一般課程)を修了した方
		日 程	5月15日、16日 2日間、12時間
		方 法	講義・演習：研修センターでの集合研修及び公共交通機関・公共施設を使った屋外演習
		修了者／受講者	14名/15名（44歳～73歳 平均年齢 57.5歳）

① 介護に関する入門的研修

- ・対面で実施し、車いすや介護ベッドなど、福祉用具を使用し、実際に体験を行った。

＜参加者の声＞

- ・現場で働いている方々のリアルなお話を伺えて良かったです。
- ・役に立つ情報が得られて、勉強になりました。
- ・入口として、入門講座があることは、介護に関わる人材を幅広くつのることに、有意義だと感じました。
- ・他の参加者の方々とも知り合えて有難かったです。

② 介護職員初任者研修

- ・令和3～5年度の講義はオンライン会議システムで実施していたが、令和6年度は講義・演習とも対面集合形式での開催となった。受講者には開講日の5日前より健康管理シートを記

録してもらい、受講中はマスク着用、換気、適宜手指消毒など、感染防止対策を行った。集合研修のため、初日から受講者同士の横のつながりが生まれ、終始なごやかな雰囲気での研修が進行した。

- ・第1回は修了者16名のうち10名が福祉の仕事に従事した。そのうち5名は受講前より福祉の仕事に従事しており、資格を取りステップアップができた。
- ・第2回は、修了者10名のうち5名が福祉の仕事に従事した。うち4名は受講前より福祉の仕事に従事しており、資格を取りステップアップできた。

<参加者の声>

- ・この2ヵ月、本当に充実した研修となりました。知識を深める楽しさを久しぶりに感じる事ができました。
- ・とても内容の濃い講義の連続だった。講師の皆さまがとても熱心で、知識が深く、情熱のある方々で、どんな質問をしても理解できるまで教えていただいたことに感謝している。
- ・（実技演習で）最初は何となく、失敗ばかりでしたが、講師の方々が分かりやすく教えてくださったので何とか形になったと思います。利用者役、介護者役に分かれてできたのが、お互いの気持ちが分かってよかったと思います。
- ・できるようになるまで何度も繰り返し、手取り足取り、あたたかく教えていただいた。
- ・今後の仕事のことで相談にのってもらい、アドバイスをいただけたのはありがたかった。
- ・世田谷区で介護の仕事をしようと思います。
- ・家族介護もやっていくが、今後介護を職にしてみたい
- ・実務者研修が開講されるとうれしい。
- ・ステキな仲間との研修は楽しかったです。この仲間たちとの付き合いは長く続きそうです。

③ 同行援護従業者養成研修

- ・一般課程は、19名が修了し、応用課程は昨年度より5名多い14名が修了した。
- ・一般課程修了者は2名、応用課程修了者は、昨年度より2名多い5名が同行援護に従事。

<参加者の声>

（一般課程）

- ・先生方の指導がとてもわかりやすかった。障害者の方達が表に出ていく為にも、ガイドさんが絶対に必要だと思った。
- ・不明な点や確認したい点などをすぐに伺う事ができ、講師、アシスタントと複数のチェック体制があるので、不安なく進める事ができた。
- ・利用者の満足度向上には、反復して訓練を行い、技術レベルを上げることや、利用者にとって過不足のない情報提供できるようにすることが重要な点。
- ・当事者ご本人から、ガイドに求めることや出先での困り事を伺うことができ、深く学ぶことができた。

（応用課程）

- ・具体的な事例を通して、これまでの（一般課程なども含み）講義などをおし、視覚障害者の方の気持ちなどが理解できた。
- ・実際に施設や車両を使わせて頂いたトレーニングをすることができ、現場で様々な体験をなさってこられた講師の方々から学ぶ事ができた。
- ・白杖と点字が視覚障害者の方によっては、心理的に抵抗を持たれていることに気付いた。当事者の方々の、持ちたくない、使いたくない、という気持ちも理解していきたい。

- ・視覚障害だけでなく、他の障害や困難を抱える方についても広く思いを及ぼすことの必要性を感じたので、実際に支援に結びつけていきたい。

＜今後に向けて＞

- ・同行援護は、令和 7 年度より新カリキュラムへ移行するため、確実に知識・技術の習得ができるよう、引き続き安全に配慮し研修を実施できるよう準備する。
- ・より多くの一般課程修了者が従業者として就業できるよう、視覚障害者をより深く理解できるよう、大切なポイントをしっかりと伝え、実践につながるより質の高い研修となるよう、講師と相談しながら研修環境を整える。
- ・キャンセル者には、新年度の要項を送付する等、情報提供に努める。
- ・研修受講により、福祉の理解促進や知識や技術の習得で自信がもて、就労へつながるきっかけともなることから、これらの研修を継続して実施していく。

2) 福祉サービスの担い手の発掘・就労支援

事業概要	福祉人材を総合的に確保・育成するため、ハローワークや東京都社会福祉協議会、産業振興公社等関係機関と連携し、①せたがや福祉のしごと入門講座、面接・相談会、②せたがや福祉のしごと区内介護施設等見学会、③訪問看護の就労支援講座、④訪問看護の職場体験を実施している。
対 象	①②これから福祉の仕事に就きたいと考えている方 福祉の仕事に関心のある方 ③④看護師等の資格保有者
そ の 他	雇用保険求職活動の実績対象

＜実施方法と実績＞

① セタがや福祉のしごと入門講座、面接・相談会

- ・10月2日のイベントを除き、各日2回実施し、年計7回実施。
- ・参加事業所1分間PR動画を研修センターホームページで開催前後約2週間公開した。開催ごとの動画再生数全事業所合計で200回を超えている。福祉のしごとや資格等に関する説明、介護職員等の体験談を語る座談会動画は、開催後2週間公開した。
- ・10月2日はイベントとして、福祉人材育成・研修センターとハローワーク渋谷、東京都福祉人材センター、世田谷区産業振興公社とともに実施した。

	実施回数 (回) ※	実施方法	参加企業 (所)	参加者数(イベント参加者数再掲) (人)	入門講座 参加数(人)	面接者数 (人)
令和6年度	7	会場	93	268 (75)	201	265
令和5年度	6	会場	46	290 (63)	186	227
令和4年度	5	Web／会場	59	178 (27)	111	96
令和3年度	4	Web／会場	51	118 (13)	118	—
令和2年度	4	Web／会場	66	239 (119)	170	—
令和元年度	4	会場	42	294 (95)	125	180
平成30年度	5	会場	37	348 (176)	112	168

※実施回数のうち1回はイベント

() 内はイベント参加者数再掲

※Web開催は面接会なし。

＜参加者の声＞

- ・入門講座では、仕事の始め方や資格取得、助成制度など、要点が良くまとめられていたので、短時間で理解できた。
- ・座談会の動画を通して、現場で働いている方のお話が聞けて良かった。
- ・面談ではとても丁寧に説明いただき、誠意を感じた。異業種からの転職や無資格でも働けることがわかって、明確になった。

② せたがや福祉のしごと区内介護施設等見学会

- ・現地集合、現地解散で午前・午後の2コース制で実施。各コース2～3施設を見学した。
- ・参加者には感染対策として、検温、手指消毒等を実施した。

	実施回数 (回)	実施方法	参加企業 (所)	参加者数 (人)	ハローワーク 登録者数(人)	就職者数 (人)
令和6年度	5	バス見学会	21	81	38	0
令和5年度	5	バス見学会	21	67	33	1※
令和4年度	5	Web／会場	20	51	36	0
令和3年度	5	Web／会場	20	70	－	－
令和2年度	4	Web／会場	17	44	－	－
令和元年度	6※	バス見学会	26	66	51	17
平成30年度	4	バス見学会	20	39	31	13

※第4回目までの合計就職者数

＜参加者の声＞

- ・入居者の方と、働いている方のリアルな姿を見ることができ、雰囲気を感じられた。
- ・特別養護老人ホームの見学を中心に見たが、施設によって違いがあることが分かった。
- ・ひとりで施設見学に行くよりも、一緒に見学される方がいて心強かった。研修センターの方から質問をいろいろ加えてくださり、有意義だった。
- ・初めて介護施設を見学し、そこで働く人を含め、職業のイメージをある程度具体的に確かむことができた。担当者の方や施設長さんのお話は、心構えを理解するのに大変有意義だった。

③ 訪問看護の就労支援講座

訪問看護について、仕事の内容や魅力を伝えるとともに、地域医療に携わる医師による講演や現役の訪問看護師との交流を通して、就労を支援する。

	実施回数	参加者数
令和6年度	3	97
令和5年度	3	88
令和4年度	3	60
令和3年度	3	62
令和2年度	3	59
令和元年度	3	27
平成30年度	3	33

<参加者の声>

- ・実際の現場のステーションの方々の生の声の話を聞いたのが良かった。
- ・経験豊富な看護師でなければ就業は難しいイメージがあったが、同行訪問や ICT の活用などサポート体制があることに安心感が持てた。
- ・私は大学病院に勤務していて、訪問看護に対してのハードルが高かったです。（孤独、判断を求められるなど）でも、一人の方と深く向き合える魅力的な仕事だなと思いました。
- ・多職種連携をはかるための訪問看護師の役割の重要性を知ることができた。
- ・何を大切にしているか、訪問看護のやりがいを伺え理解が深まった。
- ・懇談会では、それぞれに参加者の質問に答えていただき、貴重な時間だった。
- ・訪問看護の良さや、看護師が大切にしている患者の死に対する向き合い方などの話を聞いて、今まであまり関心を向けられなかった訪問看護の良さに気づけた。
- ・訪問看護の現状を知ることができてとても良かったです。医師の話が聞いたのもよかった。

④訪問看護職場体験

訪問看護ステーションの看護師と一緒に訪問看護の仕事を体験、現役の看護師に直接話を聞くことで、不安や疑問等を軽減し、就労を支援する。

	体験回数	延回数
令和 6 年度	1	2
令和 5 年度	0	0
令和 4 年度	1	2
令和 3 年度	コロナ禍のため未実施	
令和 2 年度	コロナ禍のため未実施	
令和元年度	8	10
平成 30 年度	6	7

<今後に向けて>

- ・面接会では、全体的に参加者を増やせるよう取り組む。
- ・相談・面接会では、福祉のしごとの魅力や現場の実際の周知を図るため、KAiGO PRiDE 写真展や福祉用具の展示・体験を実施する。
- ・1 分間 PR 動画を求人票とともに相談・面接会前にホームページ上で公開し、参加者の参加意欲が高められるようにする。
- ・見学会では全参加者のうち、介護職場への就職者は 2 名いたが、見学先の就職につながるように、各施設の魅力や給与、多様な働き方などを PR し就職に結びつくようにする。
- ・見学会のちらし配布先に図書館等を加えるなど、周知先の範囲について検討する。
- ・就労支援講座の対象となる看護師・准看護師の参加者が少ないため、従来の周知方法だけでなく周知内容、回数、周知先等検討する。また、看護学生の参加は、将来の訪問看護従事への選択肢の提供の場として、引き続き、看護学校への周知、参加を呼びかけていく。

3) 福祉人材の定着支援

福祉のしごと 相談	こころの相談（面談）、メール相談、電話や研修等を通じた相談を実施 【相談件数】 ・こころの相談（面談） 10件（他当日キャンセル1件） ・メール相談 7件 ・電話、研修を通じた相談 22件（電話21件、メール1件）
研修室の貸出	区内福祉サービス事業所等が実施する研修などのために貸出 今年度団体登録 19団体 95回
図書の貸出	区内福祉サービス事業所等に参考資料として、研修センター図書の閲覧・貸出を行う
世田谷区介護 サービスネット ワーク事務局	研修グループ、通所連絡会、訪問介護連絡会、福祉用具連絡会、地域部会の活動の支援及び入退会に伴う手続きや名簿管理、会費徴収事務等。 ・令和6年5月から令和7年4月世田谷地域部会主催の「介護事業所管理者向け連続講座パート2」、通所連絡会主催の交流会、災害対策小委員会、訪問介護連絡会、福祉用具連絡会の研修・イベント、各部会定例会の会場予約などを実施。
腰痛予防対策	腰痛予防「福祉用具活用のススメ」リーフレット作成

＜今後の取組み＞

- ・福祉のしごとに関心をもつ方が、仕事内容・働き方、資格取得等について相談できる「福祉のしごとはじめて相談」と、仕事における悩みや介護技術、職場の人間関係等について相談できる「福祉のしごと 悩み相談」の周知を継続する。
- ・ハローワーク等関係機関の紹介を相談チラシに掲載し、相談の一助とする。
- ・継続して介護サービスネットワークの運営が続けられるよう、委員の負担軽減を図り必要な支援を継続していく。

福祉のしごと相談



圖書貸出



(3) 世田谷区介護人材対策推進協議会

目 的	区内介護サービス事業者と関係機関が一体となり、区における介護人材の確保及び育成・定着支援について、中長期的な視点も含めた対策を検討し介護人材不足解消を図る。
進め方	全体会：年 2 回 部会：「入所系」「在宅系」各 2 回 現状把握し課題を確認して、課題解決に向け 新たな取組みの検討を行い、実施可能なものから実行する。介護人材対策の好事例を収集し発信する。
検討内容	(1) 介護現場の革新・生産性の向上に関すること。 (2) 多様な人材の参入・活躍の促進に関すること。 (3) 介護の仕事の魅力発信・職業イメージの改善に関すること。 (4) その他介護人材の確保・育成・定着支援に関すること。

世田谷区介護人材対策推進協議会報告書参照

研修センターホームページ > 調査・研究報告 > 令和 6 年度調査報告

> 令和 6 年度世田谷区介護人材対策推進協議会報告書

(4) サービスの質の向上

「ひきこもり(8050 問題)の理解・支援力向上」など、1 本の新規研修を加え、更なる福祉事業所のサービスの質の向上に取り組んだ。研修内容に応じ Web による研修、感染対策に留意しながら集合（対面式）による研修を実施した。また、集合と動画視聴を併用した複合的な研修方式も実施し、多くの事業所に学びの機会を提供した。

年間研修数※	121 本	集合研修 49 本 Web 研修 72 本（内訳：動画視聴 49 本 ライブ 7 本 ライブ+動画視聴 3 本 集合+動画 11 本 集合+ライブ 1 本 集合+ライブ+動画視聴 1 本）	
年間受講者数※	7,717 人 / 平均 63.7 人		
動画視聴 受講者数※	4,668 人 / 平均 95.2 人	集合+動画※	1,383 人 / 平均 125.7 人
ライブ 受講者数※	150 人 / 平均 21.4 人	集合+ライブ +動画※	100 人 / 平均 100 人
ライブ+動画視聴 受講者数※	218 人 / 平均 72.6 人	集合研修 受講者数※	1,198 人 / 平均 25.0 人

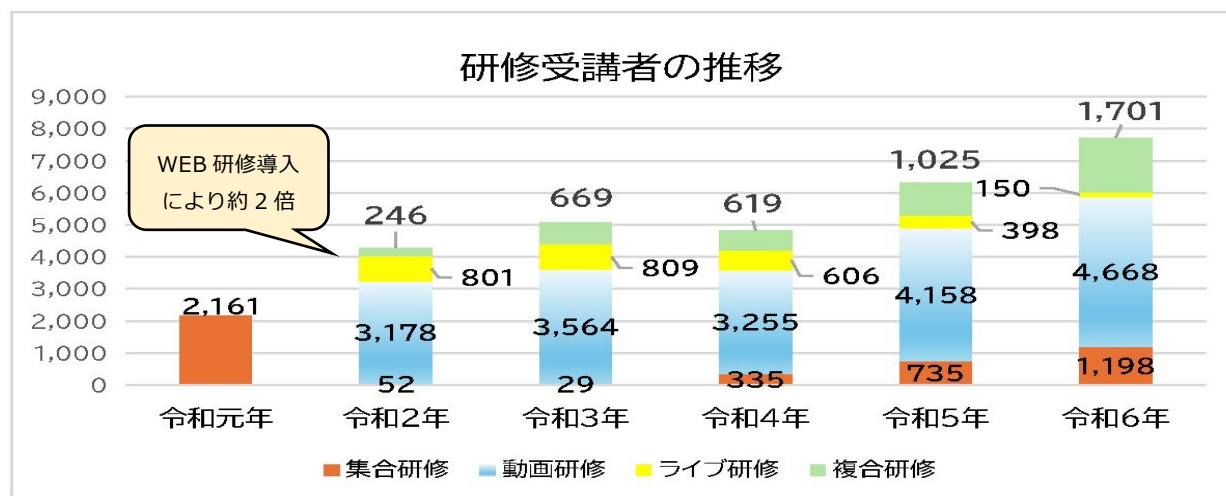
※令和 6 年 3 月 31 日 現在 注：令和 6 年度より動画視聴回数を動画受講者数とする。

<実施方法>

- ・座学は引き続き Web 研修を中心に実施し、誰もが安全に受講しやすい研修機会を提供した。
- ・研修センター研修室の機能を活かし、集合（対面）方式での研修を増やして、グループワーク等のやり取りを行うことでより有益な研修実施に繋がった。
- ・より多くの受講者の受講スタイルに合わせられるよう、集合研修（ライブ研修）とその研修内容の録画視聴の双方を受講者が選択できる、複合的な研修方式を増やした。
- ・視聴期間が長く、ホームページ上で自由に視聴可能な公開講座も引き続き実施し、多くの方に受講の機会を提供した。
- ・「介護のワンポイントレッスン」を動画視聴による公開講座で実施し、日常生活にも役立つ介護の基本を短時間で受講できるようにした。

<受講者の推移>

- ・受講者は令和2年度のWeb研修の導入により、2倍に増加し推移している。
集合研修を再開し、実技演習・グループワーク中心に集合研修を増加している。
- ・令和6年度集合研修は前年度より16本増加。



	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
集合研修	2,161	52	29	335	735	1,198
動画研修		3,178	3,564	3,255	4,158	4,668
ライブ研修		801	809	606	398	150
複合研修		246	669	619	1,025	1,701
計（人）	2,161	4,277	5,071	4,815	6,316	7,717

注：令和5年度より動画研修申込者数を動画受講者数とする。

<受講者の属性>

- ・高齢分野での事業種別では、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの順で多く、職種別では、介護支援専門員、管理職の順が多かった。
- ・障害分野での事業種別では、生活介護、居宅介護・重度訪問介護の順で多く、職種別では、生活支援員、介護支援員の順が多かった。

高齢分野（参加者の多い順）

	事業種別	人数	全体の割合(%)
1	居宅介護支援事業所	2,020	54.8
2	地域包括支援センター	722	19.6
3	訪問介護	444	12.0
4	通所介護	119	3.2
	職種別	人数	全体の割合(%)
1	介護支援専門員	1,895	22.9
2	管理者	485	12.3
3	介護職	445	10.8
4	看護職等	173	4.7

障害分野（参加者の多い順）

	事業種別	人数	全体の割合(%)
1	生活介護	106	22.9
2	居宅介護・重度訪問介護	57	12.3
3	共同生活援助	50	10.8
4	相談支援	39	8.4
	職種別	人数	全体の割合(%)
1	生活支援員	136	29.5
2	介護支援員	119	25.8
3	管理者	64	13.8
4	保育士	30	6.5

<申込者の多かった研修>

	研修名	申込者	前年度比 (%)	アンケート 回収数	視聴回数	平均視聴 回数※
1	人材確保・人事管理セミナー研修 【動画視聴】「介護報酬改定」	207	集合・動画 研修	112	299	1.4
2	高次脳機能障害支援力向上研修 (基本)【動画研修】	203	114	136	516	2.5
3	第1回高齢者虐待対応研修 【集合・動画視聴】	200	114	139	214	1.0
4	第2回高齢者虐待対応研修 【集合・動画視聴】	198	ライブ研修	112	109	0.8
5	認知症ケア研修【動画視聴】 「医学的視点」	184	88	90	370	2.0

※アンケート回答数を視聴者数として算出

<今後の取組み>

- ・研修センター、受講者、研修講師ともに Web 研修の習熟を図り、ネット環境を整えていけるよう働きかけていく。
- ・講義形式の研修は引き続き Web 研修を中心とし、グループワークや実技研修などは、感染対策に留意しながら徐々に対面形式の集合研修を更に増やしていく。
- ・項目ごとに分けた短時間でも視聴ができるような動画研修の検討。
- ・動画視聴等の Web 研修と集合研修を併用し、効率的・効果的な研修を進めていく。
- ・より多くの受講者が効果的に学べるよう、Web 研修の受講方法や Web 環境が整わない方には、研修センターでの受講等の周知を図る。
- ・誰でも視聴できる、視聴期間の長い公開講座の拡充を図る。

（５）福祉の仕事の魅力向上・発信

1) 世田谷区の福祉人材広報誌「福祉のしごと ふくしごと」作成・発行

目 的	これから仕事をしようとしている方などにむけ、福祉の仕事は人間の尊厳にかかわる、知識・技術に基づいた専門性のある魅力的な仕事であることを伝える。
対 象	これから仕事をしようとしている方、福祉の仕事を考えている方（若者、子育てを終えた方、定年退職した方 など）
内 容	タイトル「誰一人取り残さない社会の実現に向けて」 1. 事業所代表による座談会 福祉のしごとの醍醐味～人から必要とされること 2. データでみる世田谷、介護の仕事と資格の関係 3. 有識者インタビュー：雨宮由紀枝氏（日本女子体育大学名誉教授） 4. 若者の声：せたがや福祉区民学会学生理事・第 16 回大会学生実行委員 5. 異業種からの声：フランポネ マヌー島岡氏（吉本興業）
配 布 先	ハローワーク、社会福祉協議会、ボランティアセンター、らぷらす、お仕事カフェ、青少年センター、若者サポートステーション、シルバー人材センター、図書館、研修センター、せたがや福祉区民学会など ※研修センターHP に掲載
作成部数	3,000 部

<今後の取組み>

- ・今後も福祉の仕事の魅力向上発信の効果的なツールとして、継続的に発行していく。
- ・イベント等にて配布し、広く周知を図る。

（６）せたがや福祉区民学会

事業概要	身近な地域で日頃の実践を発表し、情報交換を通してお互いの交流を深めあい、区民福祉を向上することを目的に、世田谷区内の福祉系 8 大学、福祉施設や事業所で働き、学び、研究する者と区民、行政で構成されます。年 1 回大会を開催し、福祉活動や研究成果を発表し、学びあい、区民福祉の向上を目指します。 （平成 21 年 12 月設立） 団体会員：143 団体、個人会員：54 名
開催方法	第 16 回大会 日本女子体育大学で開催
実 績	●令和 2 年度 第 12 回大会の延視聴回数：4,248 回（WEB 開催） ・全体会： 308 回 ・分科会：3,512 回 ・基調講演：248 回 ・大会総括：180 回 ●令和 3 年度 第 13 回大会の延視聴回数：2,977 回（WEB 開催） ・全体会： 182 回 ・分科会：2,452 回 ・基調講演：118 回 ・大会総括：108 回 ・ワークショップ：117 回 Zoom 参加者数：51 名 ●令和 4 年度 第 14 回大会（駒澤大学） ・事例発表数：46 事例 ・参加者数：344 名 ・ワークショップ：26 名 ●令和 5 年度 第 15 回大会（東京農業大学） ・事例発表数：61 事例 ・参加者数：493 名 ・ワークショップ：44 名 ●令和 6 年度 第 16 回大会（日本女子体育大学） ・事例発表数：67 事例 ・参加者数：436 名 ・ワークショップ：32 名 <16 回の大会の実績（平成 25 年度第 5 回大会大雪で中止）> ・事例発表数：836 事例 ・参加者数：5,832 名（令和 2 年度第 12 回大会・令和 3 年度第 13 回大会除）

<実施方法>

- ・学生理事・学生実行委員を中心に「笑顔の輪を広げる みんなのスポーツ」をテーマにワークショップを開催し、会員や学生相互の交流が図られた。
- ・KAiGO PRiDO@SETAGAYA 写真展では、写真を通し世田谷で働く介護職が自らの言葉で仕事の魅力を発信した。介護の魅力 PR 事業では、5つのストーリー動画を放映し、福祉・介護の魅力を発信した。
- ・障害者施設自主生産品展示販売では、お菓子や小物などの展示販売を行った。
- ・大会報告集は「発表者の発表を終えて」と「助言者の助言」などを1冊にまとめ会員に送付。
- ・会場開催での交流に加え Web 配信し、対面・オンライン開催、両方の良さを生かし実施した。

<参加者の声>

- ・運動、スポーツは、全ての人とつながる人を笑顔にする活動であるとともに、得意な人が負担を感じずに提供でき、また、提供する人の成長も促すことがよくわかる講演だったと思います。福祉を特別なものとしめない自然な関わり、実践が素晴らしいと思った。
- ・学生さんが、世田谷区の中で学び、世田谷区という地域を意識し、好きになり、この地域をよくしたいと思ってもらえるような、動機付けになっていると感じた。
- ・多様な方々（学生、行政、その他）様々な立場の方々が、一同に集まり、過去最高の発表数との事、年々多くの方々が、福祉について数多くの視点から発表する場となり、素晴らしいと感じています。参加の学生さんにとっても学外で発表する良い機会と体験になると感じた。
- ・介護に携わる方の写真を通し、「大変な仕事」だけの認識が一変する写真でした。プライドを持ち、仕事にチャレンジしている方々の意志を感じた。
- ・介護の魅力 PR 事業は、知らない知識もあり、このような機会に情報収集ができ、また、意外性もあり良かったです。

<今後の取組み>

- ・多くの方に参加いただき、世田谷の福祉の向上につながる。活動を知ってもらうため更に周知に努め、会員と発表者、参加者を更に増やすよう取組む。
- ・第17回大会は、令和7年11月東京都市大学で開催を予定している。

せたがや福祉市民学会
学びあい 広げよう せたがや福祉の輪

第16回大会「多様な人々をつなぐ運動・スポーツの可能性」

日時 令和6年11月9日(土) 12時～17時30分(開場:11時30分)

会場 日本女子体育大学 本館・東館(世田谷区北鳥山8-19-1)

基調講演 雨宮 由紀枝 氏(日本女子体育大学 体育学部 名誉教授)
「運動・スポーツでつながる 地域の輪っかは!」

参加費 2,000円(学生1,000円) 障がい者参加費 500円(資料代)
※お車での来場はご遠慮ください。公共交通機関をご利用ください。

内容 ワークショップ事前申込
■全体会Ⅰ 12時～13時
・開会挨拶・基調講演
■実践発表 13時30分～16時25分
・口頭発表・ポスター発表
・ワークショップ 14時～15時[事前申込]
テーマ:「笑顔の輪を広げる みんなのスポーツ」
■全体会Ⅱ 16時45分～17時30分
・大会総括
■大会プラス
・「KAiGO PRiDO@SETAGAYA」写真展
・世田谷区内障害者施設による展示販売

観覧会 18時00分～19時30分
・会場 日本女子体育大学 学生会館2階
・参加費 2,000円(学生1,000円) 障がい者参加費 500円
・申込 電話または二次元コード 締切 10月25日(金)

アクセス 日本女子体育大学
【所在地】 T157-0061 世田谷区北鳥山8-19-1
【電車】 京王線 北鳥山駅 下車徒歩約20分
【バス】 小田急バス 日本女子体育大学前 下車徒歩すぐ

せたがや福祉市民学会事務局
世田谷福祉人材育成・研修センター
TEL: 03-6379-4280
FAX: 03-6379-4281
URL: <https://www.setagaya-jinzai.jp/society>

主催: せたがや福祉市民学会 共催: 日本女子体育大学 社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会 後援: 世田谷区 社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会

第16回大会
せたがや福祉市民学会

学びあい 広げよう せたがや福祉の輪
「多様な人々をつなぐ 運動・スポーツの可能性」

開催要項・発表要旨集

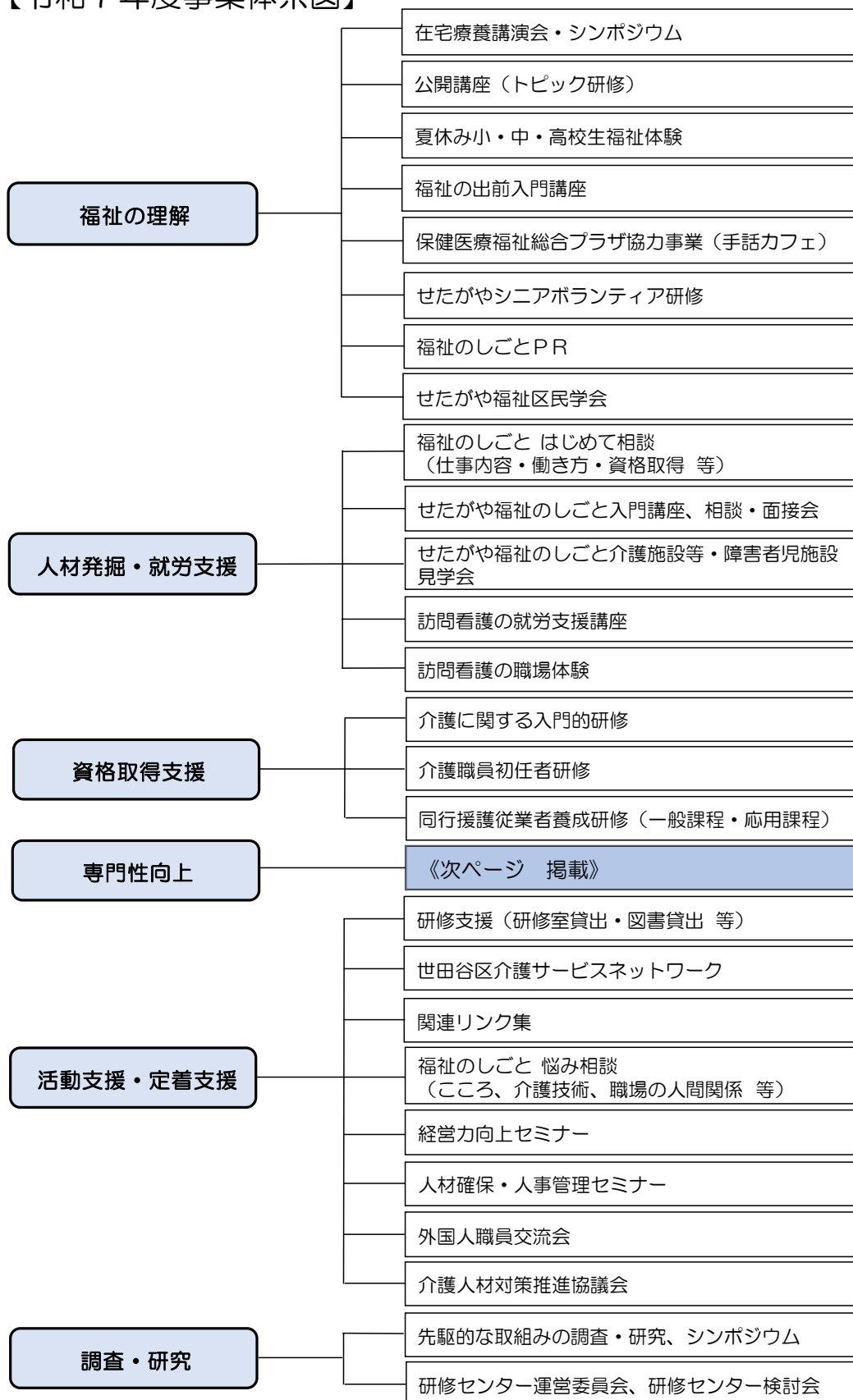
日時 令和6年11月9日(土)
12時～17時30分
(開場11時30分)

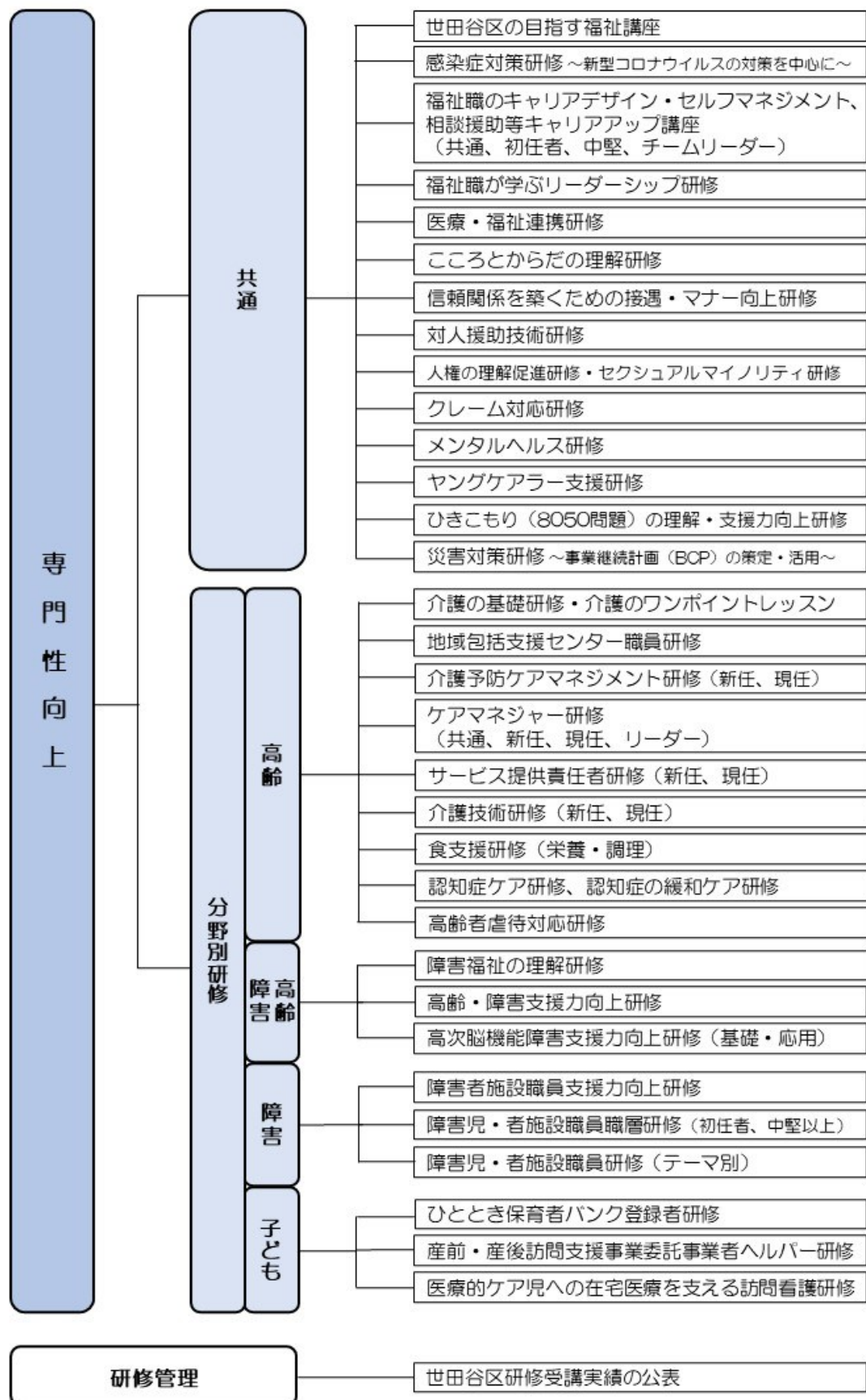
会場 日本女子体育大学 本館・東館

せたがや福祉市民学会 大会報告集 バックナンバー (第1回～第16回)

<https://www.setagaya-jinzai.jp/society/download>

【令和7年度事業体系図】





資料

1 都内地域型研修機関

名称等	主な事業	特徴的な取り組み
東京都福祉人材センター 設立：1991 年（平成 3 年） 運営：東京都社会福祉協議会	・仕事の紹介／研修／福祉の仕事に関する悩みの相談 ・小学生・中学生・高校生（教員・保護者）向けの研修 ・施設・事業者への支援／都内の福祉職場で働く人への支援 ・学校のキャリア支援担当へ支援／セミナー講師の派遣 ・就活通信の発行	・福祉学習・キャリア教育用 DVD「変わりゆく福祉職場の“今”」 ・福祉職場の“今”を、様々な疑問から動画で紹介
千代田区かがやきプラザ研修センター 設立：2016 年（平成 28 年） 運営：千代田区社会福祉協議会	・ボランティアの養成・家族介護者向け等研修 ・介護・福祉・医療職従事者向け研修 ・介護・福祉資格取得支援 ・介護人材の育成と就職・復職支援 ・医療と介護の連携 ・介護カウンセリング事業	・区独自の介護資格受講費助成
品川区介護福祉専門学校 設立：1995 年（平成 7 年） 運営：品川区社会福祉協議会	・介護福祉学科（介護福祉士養成コース、通学制） ・社会福祉士養成コース（通信制） ・実務者研修コース（通信制） ・地域の福祉サービス従事者に向けた研修、「品川福祉カレッジ」の運営	・区と社協のタイアップによる介護福祉士養成校開設 ・養成校卒業後も区との連携による研修を通して福祉人材のキャリアをバックアップ ・授業料を借り受けできる修学資金貸付制度（継続的な介護職従事で免除）、社会福祉法人との連携による福祉人材ファンドからの貸し付けあり
練馬介護人材育成・研修センター 設立：2009 年（平成 21 年） 運営：練馬区社会福祉事業団	・登録している練馬区内の介護サービス事業所で働く職員を対象に、無料の研修を年間 100 回以上提供 ・ケアマネジャー、介護福祉士の資格取得支援講座 ・地域に密着した情報交換の場の提供 ・ストレス対策やセルフケア講座	・事業所からのリクエストに応じた研修

名称等	主な事業	特徴的な取り組み
練馬障害福祉人材育成・研修センター 受託：2013 年（平成 25 年） 運営：練馬区社会福祉協議会	・学習支援／知識や技術等の基礎研修・階層別研修・啓発研修／情報支援	・連携支援：利用者支援に関する情報を共有し、情報交換等により事業者同士が連携できる環境づくり
大田区福祉人材育成・交流センター 機能設置：2022 年 （令和 4 年） 運営：大田区福祉管理課	・確保：福祉の仕事に関する相談会や見学会など ・育成：福祉支援従事者に必要な福祉の基礎的研修。分野横断的に多機関・他職種連携を推進するための研修。eラーニング環境の基盤整備（システムの導入及び研修コンテンツの整備）など ・定着：所属や分野など様々な垣根を越えた人材交流事業など	・福祉サービス事業所で働く方々が、所属や職種、支援分野など垣根を越えて交流し、共に学び、共に高め合うことを支援し、福祉従事者全体の支援の質の向上を目指す。
調布市福祉人材育成センター 設立：2015 年（平成 27 年） 運営：調布市社会福祉協議会	・福祉人材の養成の研修・情報提供 ・就職相談会による人材の掘り起こし ・専門性の向上の研修 ・市民参入に向けた普及啓発 ・事業所あるいは職員間のネットワーク形成	・市内福祉事業所の求人情報をホームページで提供 ・「ちょうふ福祉実践フォーラム」開催で職員同士のネットワーク形成
町田市介護人材開発センター 設立：2012 年（平成 24 年） 運営：一般社団法人 町田市介護サービスネットワーク	・介護サービスに従事しようとする人材の新たな発掘確保／潜在的有資格者への復職に向けた支援／市内福祉関係養成校への授業支援 ・高齢者福祉の仕事フェア／就職面接会 ・スキルアップの研修 ・地域包括ケアネットワーク構築 ・こころの相談・メンタルヘルス講演会	・事業者連絡会の事務局もしている。町プロ（ケアマネタイム）、アクティブ福祉 in 町田（表彰制度）、SNS、YouTube 配信など ・「カフェコーナー」での情報交換
武蔵野市地域包括ケア人材育成センター 設立：2018 年（平成 30 年） 運営：公益財団法人 武蔵野市福祉公社	・人材養成事業：介護職員初任者研修／武蔵野市認定ヘルパー養成研修／武蔵野市認定ヘルパーフォローアップ研修 ・研修・相談事業：技術研修／認知症支援研修／潜在的有資格者復帰研修／喀痰吸引等研修 ・事業者・団体支援事業：管理者・経営者向け研修会	・初任者研修又は 2 級ヘルパー以上の資格を持っているが介護職に就いていない人向けに、復職のための無料相談や講義・実習を実施

令和 6 年度世田谷区福祉人材育成・研修センター事業実施状況

主マネ：主任介護支援専門員更新研修における世田谷区推薦要件ウ（ア）に規定する研修 登録H：「登録ヘルパー等研修受講助成」対象研修
公表：○保健福祉サービス従事者 ●保健福祉サービス従事者（自立支援・重度化防止） ☆ケアマネジャー ★ケアマネジャー（自立支援・重度化防止）

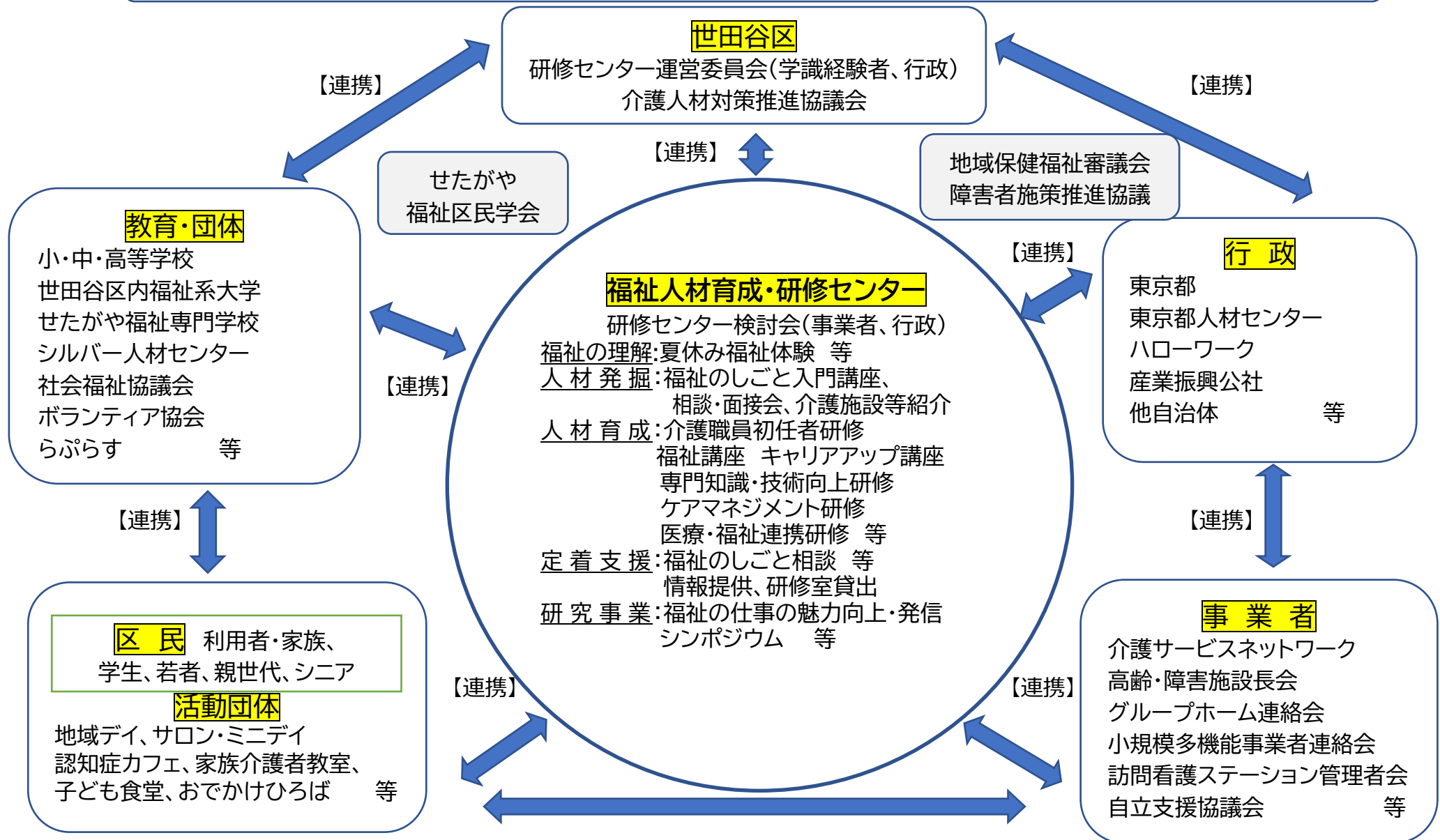
[illegible]

[illegible]

【参 考】 世田谷区福祉人材育成・研修センターと関係機関等関連図

～福祉職員が誇りや意欲をもって働き

誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けるために～



令和 6 年度 世田谷区福祉人材育成育成・研修センター事業報告書
令和 7 年 3 月発行

発行 世田谷区福祉人材育成・研修センター
〒156-0043

東京都世田谷区松原 6-37-10 世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 1 階

電話：03-6379-4280 FAX：03-6379-4281

ホームページ：<https://www.setagaya-jinzai.jp>